

第 2 1 回川崎病全国調査成績

特定非営利活動法人
日本川崎病研究センター

川崎病全国調査担当グループ

[連絡先]

〒 329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
自治医科大学公衆衛生学教室気付
川崎病全国疫学調査事務局
連絡担当 屋代真弓・上原里程

TEL 0285-44-6192
FAX 0285-44-7217

2 0 1 1 年 9 月

第 2 1 回川崎病全国調査成績

はじめに

1970 年以来 2 年に 1 回の間隔で 20 回にわたって、川崎病全国調査が行なわれてきた¹⁻³⁵⁾。今回 2009 年～ 2010 年の 2 年間の患者を対象に実施した第 21 回川崎病全国調査の成績がまとまった。2 年間の調査成績より、報告患者数、初診年月分布、性・年齢分布、地域分布、診断、家族歴、再発例、死亡例、心障害例(急性期異常、後遺症)、初診時病日、不全型主要症状の数、免疫グロブリン(IG)治療(不応例の有無、初回 IG 投与施設)、初回 IG 投与後の追加治療(追加 IG 投与、ステロイド投与、infliximab 投与、免疫抑制剤投与、血漿交換)、出生時の状況、合併症などの疫学像並びに臨床像を明らかにしたので、これまでに得られた過去の調査成績と比較しながらその概要を報告する。

I. 方法

第 21 回川崎病全国調査は、2009 年 1 月 1 日より 2010 年 12 月 31 日の 2 年間に小児科を標榜する 100 床以上の病院、および小児科のみを標榜する 100 床未満の専門病院を受診した川崎病初診患者を対象に郵送(一部、インターネットサーベイランス参加の施設には電子メールでも依頼)により実施した。(添付の調査票様式参照)

施設の選定は、前回使用した医療機関のリストに、その後現在までの変更を更新したものをを用いた。対象候補施設数は 2,072 か所であった。

本調査は、自治医科大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(2010 年 8 月 31 日、疫 10-23)。

II. 調査結果

1. 回収率

依頼状、調査票等を送付した 2,072 施設のうち、廃院等の連絡があった 39 施設を除く 2,033 施設を調査対象とした。回答は 1,445 施設から得られ、回収率は 71.1 %であった。そのうち、ホームページより調査票をダウンロードして Excel ファイルで回答した施設が 90 か所、インターネットサーベイランス参加施設で登録済みの患者ファイルを使用して回答した施設が 40 か所であった。なお、サーベイランス参加施設でも調査票郵送により協力を得たところもある。

回答があった 1,445 施設のうち、患者報告があった施設は 925 施設(回収施設の 64.0 %)であった。回収率は、都道府県によって 58.6 %～ 85.0 %の開きがみられた。東日本大震災(2011 年 3 月 11 日)の被災地からの回答は、福島県でやや回収率が低かった(前回 75.6 %、今回 64.9 %)が、その他の県では前回と大きな違いはなかった。

2. 年次推移

今回の調査で報告された 2 年間の患者数は、2009 年 10,975 人(男 6,249 人、女 4,726 人)、2010 年 12,755 人(男 7,266 人、女 5,489 人)のあわせて 23,730 人であった。

2 年間の性別患者数は、男 13,515 人、女 10,215 人で、2 年間平均の罹患率は 0-4 歳人口 10 万対 222.9 (男 247.6、女 196.9)であった。

患者数の性比(男/女)は 1.32、罹患率の性比は 1.26 でいずれも男の方が高かったが、今回、やや性差が縮小した。過去 20 回に報告された患者を含めると 2010 年 12 月末までの患者数は、合計 272,749 人(男 157,865 人、女 114,884 人)になった。

川崎病患者数の年次推移は、表 1、図 1 に示すとおりである。1979 年、1982 年、1986 年の 3 回にわたる全国規模の流行がみられた。その後、年次とともに増加傾向が続き、2005 年の患者数は 10,000 人を超え、2006 年には第 1 回目の流行年(1979 年)の約 1.5 倍となった。さらに 2007 年、2008 年には 11,000 人を超えた。2009 年にはやや減少がみられたが、翌 2010 年には 12,000 人を超え、第 3 回目の大流行年(1986)年に匹敵する患者数となった。

罹患率の年次推移をみると、表 1、図 2 に示すように、2009 年は 0-4 歳人口 10 万対 206.2、2010 年は 239.6 であり、史上最高値となった。

3. 月別推移

最近 10 年間の月別、性別患者数を図 3 に示す。患者数は各年とも同じような季節変動を示し、すべての月で男が多くなっている。最近の 2 年間については、両年とも秋(9-10 月)は少ないが、春から夏にかけても増加が観察された。2008 年までの数年間は 1 月のみ極端に多くなっていたが、2009 年は 1 月が高いが、前年の 12 月には及ばず、2010 年は 3 月、1 月が高く山が 2 つみられた。

4. 性・年齢分布

患者数の性・年齢分布をみると、3 歳未満の者の割合は全体の 66.8 % (男 67.7 %、女 65.6 %) であった(表 2)。2009 年、2010 年平均の性・年齢別罹患率では、男は月齢 6-8 か月にピーク(人口 10 万対 424.5)、女は月齢 9-11 か月にピーク(人口 10 万対 299.6)をもつ一峰性の山(男は月齢 12-14 か月に一旦減少)がみられた。前回実施した 2007 年、2008 年の成績では両者とも月齢 9-11 か月にピークがみられた。罹患率の性比は、月齢 6-8 か月の者で最も大きく 1.44 であった(図 4)。

5. 地域分布

2 年間の患者住所都道府県別報告数が最も多かったのは東京で 2,417 人、次いで神奈川 2,005 人、大阪 1,645 人、愛知 1,639 人の順であった。年次別都道府県別罹患率を 0-4 歳人口 10 万対で計算した(2007-2008 年の都道府県別罹患率は 2005 年国勢調査人口、2009-2010 年の罹患率は 2010 年住民基本台帳人口を用いて計算した。全国の罹患率は各年次の推定人口を用いて計算した。ただし 2010 年は 2009 年の人口を使用)。2009 年、2010 年両年とも罹患率が高いところは、神奈川、長野、和歌山などであった。2009 年の罹患率が高いところは、徳島、群馬などであった。2010 年の罹患率が高いところは、福井、京都などであった。全国各地で局地的に患者数の増加があったと考えられる。2 年間とも低いところは、岩手、岐阜、宮崎、沖縄などであった(表 3)。

2007 年～ 2010 年の各年について、都道府県別罹患率の地図を作成した(図 5)。都道府県によって回収率が異なるので、未回収施設も同じ患者数があると仮定して回収率を 100 % に補正して、0-4 歳人口 10 万対罹患率の地域差を示した。2007 年に罹患率の高い地域は、徳島、愛媛などの四国、和歌山、愛知、群馬、千葉、東京など、近畿と関東の一部の主に太平洋側であったが、2008 年には熊本、福島、兵庫、福井、長野などの九州、東北から日本海側の一部に広がった。2009 年には、九州、四国で罹患率の上昇がみられた。2010 年には、東北の一部を除き、高率地域が全国に広がっていた。

6. 診断

診断基準への一致度をみると、定型例 78.7 % (男 79.0 %、女 78.4 %)、不定型例 2.6 % (男 2.7 %、女 2.5 %)、不全型 18.6 % (男 18.3 %、女 19.0 %) であった。前回より定型例、不定型例がさらに減少し、不全型が増加した。年齢別にみると、2 歳未満の若年齢では不全型の割合が比較的高く、また年長児でもその割合が高かった(表 4)。

なお、定型例(調査票では「確実 A」とした)は「川崎病診断の手引き 改訂 5 版」(2002 年 2 月に診断の手引きが改訂され、第 17 回全国調査から改訂 5 版を使用)に示された 6 つの主要症状のうち 5 つ以上の症状を伴う者、不定型例(「確実 B」)は 4 つの症状しか認められなくても、経過中に断層心エコー法もしくは心血管造影法で、冠動脈瘤(いわゆる拡大を含む)が確認され、他の疾患が除外された者をいう。また不全型(「不全型」)は上記のいずれにも合致しないが、主治医が川崎病の疑いありと診断して全国調査に報告した者をいう。

不全型の主要症状の数は 4 つが最も多く 65.6 %、次いで 3 つ 26.6 %、2 つ 6.1 %、1 つ 0.7 %、不明 0.9 % であった。性別にみてもほぼ同様の割合であった。年齢別には、8 歳以上を除き高年齢になるほど 3 つ以上の症状を持つ患者の割合が高かった(表 5)。

7. 家族歴

同胞例ありの割合は報告患者中 1.6 % (男 1.5 %、女 1.7 %) であった。

両親のいずれかに川崎病の既往歴ありは 163 人(男 86 人、女 77 人)報告され、報告患者中 0.7

% (男 0.6 %、女 0.8 %) であった。既往歴を有する両親の内訳は父 74 人、母 69 人、不明 20 人であった。

8. 再発例

再発例の割合は報告患者中 3.6 % (男 3.9 %、女 3.1 %) であった。

性・年齢別にみると男女とも 5 歳までは年齢とともに再発患者の割合が増加していた。

9. 死亡例

死亡例は 2 年間で 1 人 (女) 報告され、致命率は 0.004 % であった。死亡例は定型例、初診時年齢は 3 か月の若年児で、発病後 2 か月以内の急性期の死亡であった。死因は脳梗塞であった。

10. 出生時の状況

今回の調査では、出生時の状況として、在胎週数と出生時体重を調査項目に加えた。

在胎週数が 22 週以降 43 週未満で出生時体重の記載があった 9346 人 (全体の 39.4 %) について観察すると、正期産 (37 週以降 42 週未満) は 91.0 %、早期産 (37 週未満) は 8.2 % であり、28 週未満が 0.4 % (36 人) だった。性別の出生時体重について、低出生体重 (2500g 未満) は男で 10.7 %、女で 13.2 % であり、1500g 未満の頻度は男で 1 % (55 人)、女で 1.4 % (56 人) だった。川崎病発症年齢を 2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、早期産の頻度は 2 歳未満で 8.0 %、2 歳以上で 8.5 % であり、男の低出生体重の頻度は 2 歳未満、2 歳以上ともに 10.7 % だった。一方、女の低出生体重は 2 歳未満で 12.2 %、2 歳以上で 14.3 % と高年齢で頻度が高かった。

11. 心障害例

心障害については、発病後 1 か月以内に出現した「急性期異常」と 1 か月以降も残存する「後遺症」に分けて調査を実施した。

報告患者中、急性期異常の割合は 9.3 % (男 11.0 %、女 7.1 %)、後遺症の割合は 3.0 % (男 3.6 %、女 2.1 %) であり、両者ともに前回よりも減少した。今回も後遺症は急性期異常に比べて男女とも約 3 分の 1 以下であった。両者とも男が高率を示していた。性・年齢別にみると女は若年児と高年児が高く、急性期異常、後遺症ともに 1 歳に窪みをもつゆるやかな U 字型のカーブを示していた。男は、急性期異常は若年児と高年児が高く、1 歳に窪みをもつ U 字型のカーブを示していたが、後遺症は、5 歳以上であまり上昇はみられなかった (図 6)。どちらの割合も、第 15 回調査 (1997-1998 年) から第 21 回調査 (2009-2010 年) の間に半分以下に減少していた (図 7)。

報告患者に占める急性期異常の心障害種類別割合は冠動脈の拡大 7.26 %、弁膜病変 1.19 %、瘤 1.04 %、巨大瘤 0.24 %、狭窄 0.03 %、心筋梗塞 0.01 % であった。前回と比べていずれも減少した。性別にみると弁膜病変以外はすべて男で高かった。出現率を 2 歳未満と、2 歳以上に分けてみると、巨大瘤、弁膜病変の出現率は 2 歳以上で高率にみられた。

報告患者に占める後遺症の種類別割合は冠動脈の拡大 1.90 %、瘤 0.78 %、弁膜病変 0.29 %、巨大瘤 0.22 %、狭窄 0.03 %、心筋梗塞 0.02 % であった。性別にみると、心筋梗塞と弁膜病変、狭窄以外すべて男で高かった。特に巨大瘤は、男が女の約 3 倍の出現率であった。出現率を 2 歳未満と、2 歳以上に分けてみると、巨大瘤、弁膜病変の出現率は、2 歳以上で高率にみられた。特に巨大瘤は、2 歳以上が 2 歳未満の 1.7 倍の出現率であった。

心障害の種類別の観察では冠動脈の拡大は、急性期異常に比べて後遺症ではかなり減少していた。巨大瘤、瘤は急性期異常に比べて後遺症ではやや減少していた。その他は減少がみられなかった (表 6)。

12. 初診時病日および IG 治療開始時病日

患者の初診時病日は第 4 病日が最も多く 24.4 % であり、第 4 病日までに受診した者は 65.9 % であった。2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、第 4 病日までに受診した者は 2 歳未満では 70.8 % を占めていたが、2 歳以上では 61.1 % であり、2 歳以上の年長児の受診が遅れる傾向がみられた。

IG の投与開始日は第 5 病日が最も多く 37.4 % であった。年齢別にみると、第 5 病日までに投与を開始された者の割合は 2 歳未満では 72.8 %、2 歳以上では 62.5 % であり、2 歳未満で早期

に投与を開始する傾向がみられた（表7）。

13. IG治療

IG治療を受けた者は89.5%（男89.7%、女89.3%）であり、性差はなかったが、高年齢になるほど、その割合は減っていた（表8）。

今回の調査では、IG使用の場合について、不応例か否かを尋ねた。その結果、IG治療ありの者のうち16.6%が不応例であった。性別では男、年齢別では、高年齢に不応例が多かった（表9）。

また、初回IGの投与施設についても設問に加えた。その結果、報告施設で投与された者が98%を占めていた。性別、年齢別にみても同様の割合であった（表10）。

IGの1日あたりの投与量は、1900-2099mg/kgの者が最も多く84.5%、次いで900-1099mg/kgが13.7%であった。投与期間は1日が最も多く92.0%、次いで2日7.9%であった。初回IGの1日投与量と使用日数から計算した使用総量は、1900-2099mg/kgが最も多く92.0%、次いで900-1099mg/kgが6.0%、2100mg/kg+が0.9%、1700-1899mg/kgが0.7%であった。前回に比べて使用総量2000mg/kgの大量投与がさらに増加し、治療を受けた者の9割を占めていた（表11、図8）。

14. 初回IG投与後の追加治療

追加治療（追加IG投与）の割合は、初回使用例のうち19.1%（再燃時のIG投与を含む）であった。診断別では定型例が多く、性別では男が多かった。2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳以上が多かった。

追加治療（ステロイド投与）の割合は初回IG使用例のうち6.5%であった。診断別では不定型例がやや多く、性別では男が多かった。2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳以上が多かった。

追加治療（infliximab投与）の割合は初回IG使用例のうち0.9%であった。診断別では不定型例がやや多く、性別では男が多かった。2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳以上が多かった。

追加治療（免疫抑制剤投与）の割合は初回IG使用例のうち0.8%であった。診断別では定型例がやや多く、性別では男が多かった。2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳未満が多かった。

追加治療（血漿交換）の割合は初回IG使用例のうち0.5%であった。診断別では定型例が多く、性別では男が多かった。2歳未満と2歳以上では、ほぼ同じ割合であった（表12）。

同様に、IG不応例について追加治療の割合をみた。

不応例の追加治療（追加IG投与）の割合は、91.5%であった。診断別では定型例がやや多く、性別では女が多かった。2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳未満が多かった。

追加治療（ステロイド投与）の割合は29.0%であった。診断別では不定型例が多く、性別では男が多かった。2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳以上が多かった。

追加治療（infliximab投与）の割合は4.3%であった。診断別では不定型例が多く、性別では男が多かった。2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳以上が多かった。

追加治療（免疫抑制剤投与）の割合は3.7%であった。診断別では不全型が多く、性別では男がやや多かった。2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳未満が多かった。

追加治療（血漿交換）の割合は2.2%であった。診断別では定型例が多く、性別では男がやや多かった。2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳未満がやや多かった（表13）。

15. 合併症

今回の調査で合併症の有無を調べた。その結果、嘔吐・下痢4.40%、気管支炎・肺炎2.58%、重症心筋炎（治療を要する心筋炎）0.16%、脳炎・脳症0.09%、頻脈性不整脈0.07%、肉眼的血尿0.04%であった。

診断別では頻脈性不整脈以外は不定型例が多かった。

性別では頻脈性不整脈、気管支炎・肺炎、肉眼的血尿は男でやや多く、脳炎・脳症、重症心筋

炎、嘔吐・下痢は女でやや多かった。

年齢を2歳未満と2歳以上に分けて観察すると、気管支炎・肺炎は2歳未満で多く、重症心筋炎は2歳以上で多かった（表14）。

III. 要約

1. 2年間の報告患者数は23,730人（2009年10,975人（男6,249人、女4,726人）、2010年12,755人（男7,266人、女5,489人）、性比1.32）であり、2010年12月末までの患者数は、合計272,749人（男157,865人、女114,884人）になった。
2. 0-4歳人口10万対罹患率は、2009年206.2（男229.0、女182.2）、2010年239.6（男266.3、女211.6）であった。2010年の罹患率は、史上第1位となった。
3. 最近2年間の月別患者数は、すべての月で男が多く、両年とも秋（9-10月）は少ないが、春から夏にかけても増加が観察された。特に2010年は3月が一番高く、1月、3月に2つの山が観察された。
4. 2009年、2010年平均の性・年齢別罹患率では、男は月齢6-8か月にピーク（人口10万対424.5）、女は月齢9-11か月にピーク（人口10万対299.6）をもつ一峰性の山（男は月齢12-14か月に一旦減少）がみられた。罹患率の性比は、月齢6-8か月の者で最も大きく1.44であった。
5. 最近4年間の都道府県別罹患率の地域差をみると、2007年に罹患率の高い地域は、徳島、愛媛などの四国、和歌山、愛知、群馬、千葉、東京など、近畿と関東の一部の主に太平洋側であったが、2008年には熊本、福島、兵庫、福井、長野などの九州、東北から日本海側の一部に広がった。2009年には、九州、四国で罹患率の上昇がみられた。2010年には、東北の一部を除き、高率地域が全国に広がっていた。
6. 診断基準への一致度をみると、定型例78.7%（男79.0%、女78.4%）、不定型例2.6%（男2.7%、女2.5%）、不全型18.6%（男18.3%、女19.0%）であった。
7. 不全型の主要症状の数は4つが最も多く65.6%、次いで3つ26.6%、2つ6.1%、1つ0.7%、不明0.9%であった。性別にみてもほぼ同様の割合であった。
8. 同胞例の出現頻度は1.6%、再発例の出現頻度は3.6%であった。両親のいずれかに川崎病の既往歴がある者の割合は0.7%であった。死亡例は2年間に1人（女）報告され、全体の0.004%であった。
9. 出生時の状況は正期産91.0%、早期産8.2%であり、28週未満が0.4%だった。出生時体重は、低出生体重（2500g未満）が男10.7%、女13.2%であった。早期産の頻度は2歳未満で8.0%、2歳以上で8.5%であり、男の低出生体重の頻度は2歳未満、2歳以上ともに10.7%だった。女の低出生体重は2歳未満で12.2%、2歳以上で14.3%と高年齢で多かった。
10. 急性期異常の割合は9.3%であった。種類別の割合は冠動脈の拡大7.26%、弁膜病変1.19%、瘤1.04%、巨大瘤0.24%、狭窄0.03%、心筋梗塞0.01%であった。前回と比べていずれも減少した。性別にみると弁膜病変以外すべて男で高かった。出現率を2歳未満と2歳以上に分けてみると、巨大瘤、弁膜病変の出現率は2歳以上で高率にみられた。
11. 後遺症の割合は3.0%であった。種類別の割合は、冠動脈の拡大1.90%、瘤0.78%、弁膜病変0.29%、巨大瘤0.22%、狭窄0.03%、心筋梗塞0.02%であった。性別にみると、心筋梗塞と弁膜病変、狭窄以外すべて男で高かった。特に巨大瘤は、男が女の約3倍の出現率であった。出現率を2歳未満と2歳以上に分けてみると、巨大瘤、弁膜病変の出現率は、2歳以上で高率にみられた。特に巨大瘤は、2歳以上が2歳未満の1.7倍の出現率であった。心障害の種類別の観察では、冠動脈の拡大は、急性期異常に比べて後遺症ではかなり減少していた。巨大瘤、瘤は急性期異常に比べて後遺症ではやや減少していた。その他は減少がみられなかった。
12. 患者の初診時病日は第4病日が最も多く24.4%であり、第4病日までに受診した者は65.9%であった。第4病日までに受診した者は2歳未満では70.8%を占めていたが、2歳以上では61.1%であり、2歳以上の年長児の受診が遅れる傾向がみられた。
13. IGの投与開始日は第5病日が最も多く37.4%であった。年齢別にみると、2歳未満に早

く投与を開始する傾向がみられた。

- 1 4. IG 治療を受けた者は 89.5 % (男 89.7 %、女 89.3 %) であり、そのうち 16.6 % が不応例であった。また、98 % が報告施設での投与であった。
- 1 5. 初回 IG 1 日あたりの投与量は、1900-2099mg/kg の者が最も多く 84.5 % であった。投与期間は 1 日が最も多く 92.0 % であり、前回に比べて、使用総量 2000mg/kg の大量投与がさらに増加し、治療を受けた者の 9 割を占めていた。
- 1 6. 追加治療の追加 IG 投与の割合は、初回使用例のうち 19.1 % (再燃時の IG 投与を含む) であった。ステロイド投与 6.5 %、infliximab 投与 0.9 %、免疫抑制剤投与 0.8 %、血漿交換 0.5 % であった。初回 IG 不応例の追加治療の割合は、追加 IG 投与 91.5 %、ステロイド投与 29.0 %、infliximab 投与 4.3 %、免疫抑制剤投与 3.7 %、血漿交換 2.2 % であった。
- 1 7. 合併症は、嘔吐・下痢 4.40 %、気管支炎・肺炎 2.58 %、重症心筋炎 (治療を要する心筋炎) 0.16 %、脳炎・脳症 0.09 %、頻脈性不整脈 0.07 %、肉眼的血尿 0.04 % であった。診断別では頻脈性不整脈以外は不定型例が多かった。性別では頻脈性不整脈、気管支炎・肺炎、肉眼的血尿は男でやや多かった。気管支炎・肺炎は 2 歳未満で多く、重症心筋炎は 2 歳以上で多かった。

謝辞

第 1 回全国調査以来終始変わらぬご協力を賜った関係医療機関の小児科医各位に対し、本研究グループとして深く感謝します。

今回の調査にご協力いただいた医療機関名を巻末に付記します。

本報告書は自治医科大学公衆衛生学ホームページ <http://www.jichi.ac.jp/dph/kawasaki.html> でも読むことができます。

文献

- 1) 小児 MCL S 研究班 (班長: 神前章雄). 小児 MCL S 全国調査成績, 昭和 4 5 年度予備調査成績と昭和 4 6 年度個人調査成績の概要. 1971.
- 2) 重松逸造, 柳川洋. いわゆる川崎病について. 日本公衛誌 1975; 22(6): 306-312.
- 3) 柳川洋. 川崎病の実態. 公衆衛生情報 1975; 5(12): 22-29.
- 4) 柳川洋. 川崎病の疫学. 日本臨床 1976; 34(2): 275-283.
- 5) 川崎病研究班. 最近 (1977-78 年) における MCL S (川崎病) の実態, 一第 5 回全国調査結果の速報一. 小児科 1979; 20(7): 755-757.
- 6) 川崎病研究班. MCL S (川崎病の多発) 一第 6 回全国調査成績の速報一. 小児科 1981; 22(1): 53-58.
- 7) 川崎病研究班. 最近 (1981 年 1 月-82 年 6 月) における MCL S (川崎病) の実態, 一第 7 回全国調査成績の速報一. 小児科 1983; 24(1): 53-58.
- 8) 厚生省川崎病研究班. 第 8 回川崎病全国調査成績. 小児科 1985; 26(9): 1049-1053.
- 9) 柳川洋. 川崎病の全国調査成績. 川崎病疫学データのすべて (日本心臓財団川崎病原因究明委員会編). 東京: ソフトサイエンス社, 1986; 37-51.
- 10) 厚生省川崎病研究班. 第 9 回川崎病全国調査成績. 小児科 1987; 28(9): 1059-1066.
- 11) 柳川洋, 屋代真弓, 藤田委由. 川崎病の全国調査成績. 川崎病 (川崎富作, 重松逸造, 濱島義博, 柳川洋, 加藤裕久編). 東京: 南江堂, 1988; 18-31.
- 12) 厚生省川崎病研究班. 第 10 回川崎病全国調査成績. 小児科 1990; 31(5): 569-576.
- 13) 厚生省川崎病研究班. 第 11 回川崎病全国調査成績. 小児科 1992; 33(3): 309-316.
- 14) 厚生省川崎病研究班. 第 12 回川崎病全国調査成績. 小児科 1994; 35(1): 61-73.
- 15) 厚生省川崎病研究班. 第 13 回川崎病全国調査成績. 小児科 1996; 37(4): 363-383.
- 16) 厚生省川崎病研究班. 第 14 回川崎病全国調査成績. 小児科診療 1998; 61(3): 406-420.

- 1 7) 厚生省川崎病研究班. 第15回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2000; 63(1): 121-132.
- 1 8) 厚生省川崎病研究班. 第16回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2002; 65(2): 332-342.
- 1 9) 柳川洋, 中村好一, 屋代真弓, 川崎富作 (編). 川崎病の疫学—30年間の総括—. 東京: 診断と治療社, 2002.
- 2 0) 厚生労働省川崎病研究班. 第17回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2004; 67(2): 313-323.
- 2 1) 厚生労働省川崎病研究班. 第18回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2006; 69(2): 281-292.
- 2 2) 屋代真弓, 中村好一, 柳川洋. 川崎病疫学像の最近の推移 1989 ~ 2004. 日本小児科学会雑誌. 2007; 111(6): 740-745.
- 2 3) 厚生労働省川崎病研究班. 第19回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2008; 71(2): 349-360.
- 2 4) 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター). 第20回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2010; 73(1): 143-156.
- 2 5) Kawasaki T, Kosaki F, Okawa S, Shigematsu I, Yanagawa H. A new infantile acute febrile mucocutaneous lymph node syndrome (MLNS) prevailing in Japan. *Pediatrics* 1974; 54: 271-276.
- 2 6) Yanagawa H, Kawasaki T, Shigematsu I. Nationwide survey on Kawasaki disease in Japan. *Pediatrics* 1987; 80: 58-62.
- 2 7) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Fujita Y, Nagai M, Kawasaki T, Aso S, Imada Y, Shigematsu I. A nationwide survey of Kawasaki disease in 1985-1986 in Japan. *J Infect Dis* 1988; 158(6): 1296-1301.
- 2 8) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Epidemiologic pictures of Kawasaki disease in Japan: From the nationwide survey in 1991 and 1992. *Pediatrics* 1995; 95(4): 475-479.
- 2 9) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Results of 12 nationwide epidemiological incidence surveys of Kawasaki disease in Japan. *Arch Pediatr Adolesc Med* 1995; 149: 779-783.
- 3 0) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Koyanagi H, Kawasaki T. Update of the epidemiology of Kawasaki disease in Japan, From the results of 1993-94 nationwide survey. *J Epidemiol* 1996; 6(3): 148-157.
- 3 1) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Tanihara S, Oki I, Zhang T. Results of the nationwide epidemiologic survey of Kawasaki disease in 1995 and 1996 in Japan. *Pediatrics* 1998; 102(6): e65.
- 3 2) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Oki I, Hirata S, Zhang T, Kawasaki T. Incidence survey of Kawasaki disease in 1997 and 1998 in Japan. *Pediatrics* 2001; 107(3): e33.
- 3 3) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Oki I, Watanabe M, Yanagawa H. Epidemiologic Features of Kawasaki Disease in Japan: Results from Nationwide Survey in 2005-2006. *J Epidemiol* 2008; 18(4): 167-172.
- 3 4) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Oki I, Watanabe M, Yanagawa H. Monthly observation of the numbers of patients and incidence rates of Kawasaki disease in Japan: results from nationwide surveys. *J Epidemiol* 2008; 18(6): 273-279.
- 3 5) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Sadakane A, Chihara I, Aoyama Y, Kotani K, and Yanagawa H. Epidemiologic features of Kawasaki disease in Japan: Results of the 2007-2008 nationwide survey. *J Epidemiol* 2010; 20(4): 302-307.

文献 30 と 33、34、35 は *Journal of Epidemiology* のサイト (<http://www.jstage.jst.go.jp/article/jea/>) で、
 文献 31 と 32 は *Pediatrics* のサイト (<http://www.pediatrics.org/cgi/content/>) で読むことができます。

[表1]性別患者数、罹患率、死亡数、致命率の推移

年次	患者数			0-4歳人口10万対年間罹患率*			死亡数 (致命率%)
	計	男	女	計	男	女	
～1964	88	58	30	1.1	1.4	0.8	—
1965	61	33	28	0.8	0.8	0.7	—
1966	79	49	30	1.0	1.2	0.8	—
1967	101	60	41	1.2	1.4	1.0	2(1.98)
1968	310	177	133	3.7	4.1	3.2	6(1.94)
1969	461	281	180	5.3	6.3	4.3	9(1.95)
1970	887	527	360	10.1	11.8	8.4	10(1.13)
1971	804	480	324	8.7	10.1	7.1	10(1.24)
1972	1,135	658	477	12.0	13.5	10.4	16(1.41)
1973	1,524	928	596	15.6	18.4	12.5	34(2.23)
1974	1,963	1,157	806	19.7	22.6	16.7	20(1.02)
1975	2,216	1,332	884	22.3	26.1	18.3	16(0.72)
1976	2,337	1,406	931	23.9	28.0	19.6	15(0.64)
1977	2,798	1,706	1,092	29.3	34.8	23.5	17(0.61)
1978	3,459	2,064	1,395	37.7	43.7	31.2	14(0.40)
1979	6,867	3,987	2,880	78.0	88.1	67.3	34(0.50)
1980	3,932	2,317	1,615	46.5	53.4	39.2	8(0.20)
1981	6,383	3,677	2,706	78.3	87.9	68.2	16(0.25)
1982	15,519	8,762	6,757	196.1	215.8	175.4	46(0.30)
1983	5,961	3,441	2,520	77.3	86.9	67.1	15(0.25)
1984	6,514	3,790	2,724	86.0	97.5	73.9	17(0.26)
1985	7,611	4,430	3,181	102.1	116.4	87.1	10(0.13)
1986	12,847	7,250	5,597	176.8	194.7	157.9	18(0.14)
1987	5,256	3,066	2,190	73.8	84.0	63.1	9(0.17)
1988	5,217	3,056	2,161	75.3	86.0	64.1	4(0.08)
1989	5,591	3,251	2,340	83.6	94.7	71.9	8(0.14)
1990	5,706	3,268	2,438	88.1	98.4	77.3	12(0.21)
1991	5,677	3,354	2,323	90.1	103.8	75.7	7(0.12)
1992	5,544	3,250	2,294	89.9	102.8	76.4	2(0.04)
1993	5,389	3,155	2,234	89.1	101.6	75.9	11(0.20)
1994	6,069	3,574	2,495	101.1	115.9	85.4	2(0.03)
1995	6,107	3,548	2,559	102.6	116.4	88.2	6(0.09)
1996	6,424	3,691	2,733	108.4	121.6	94.6	4(0.06)
1997	6,373	3,690	2,683	108.0	122.0	93.2	9(0.14)
1998	6,593	3,799	2,794	111.5	125.3	96.9	2(0.03)
1999	7,047	4,102	2,945	119.6	135.8	102.6	3(0.04)
2000	8,267	4,758	3,509	141.1	158.5	122.8	5(0.06)
2001	8,113	4,588	3,525	138.8	153.2	123.7	0(-)
2002	8,839	5,156	3,683	151.9	172.8	130.0	2(0.02)
2003	9,146	5,281	3,865	159.2	179.2	138.2	4(0.04)
2004	9,992	5,778	4,214	175.9	198.3	152.4	4(0.04)
2005	10,041	5,868	4,173	181.0	206.5	154.2	1(0.01)
2006	10,434	6,024	4,410	191.4	215.8	165.9	1(0.01)
2007	11,581	6,684	4,897	215.3	242.6	186.6	2(0.02)
2008	11,756	6,839	4,917	219.9	249.6	188.5	4(0.03)
2009	10,975	6,249	4,726	206.2	229.0	182.2	0(-)
2010	12,755	7,266	5,489	239.6	266.3	211.6	1(0.01)
計	272,749	157,865	114,884	—	—	—	436(0.16)

*罹患率の計算には人口動態統計の分母に用いる日本人人口(5年ごとの国勢調査人口および各年次の推計人口で、人口動態統計に掲載されているもの。ただし、2010年は2009年の推計人口)を用いた。前回調査の2008年は2007年の人口を用いたので今回2008年の人口で修正した。

[表2]年齢別、年次別、性別患者数および罹患率(人口10万対)

年齢	患者数											
	総数				2009年				2010年			
	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女
総数**	23,730	222.9	13,515	10,215	10,975	206.2	6,249	4,726	12,755	239.6	7,266	5,489
0-2か月	503	94.2	273	230	242	90.6	125	117	261	97.8	148	113
3-5か月	1,709	320.0	1,012	697	818	306.4	501	317	891	333.7	511	380
6-8か月	1,932	361.8	1,163	769	888	332.6	530	358	1,044	391.0	633	411
9-11か月	1,881	352.2	1,102	779	853	319.5	490	363	1,028	385.0	612	416
12-14か月	1,507	279.1	848	659	672	248.9	378	294	835	309.3	470	365
15-17か月	1,548	286.7	902	646	699	258.9	394	305	849	314.4	508	341
18-20か月	1,357	251.3	776	581	581	215.2	322	259	776	287.4	454	322
21-23か月	1,190	220.4	691	499	555	205.6	322	233	635	235.2	369	266
2歳-	2,266	211.4	1,278	988	1,031	192.4	593	438	1,235	230.4	685	550
2歳6か月-	1,957	182.6	1,102	855	863	161.0	494	369	1,094	204.1	608	486
3歳-	1,563	147.2	864	699	720	135.6	386	334	843	158.8	478	365
3歳6か月-	1,335	125.7	723	612	660	124.3	370	290	675	127.1	353	322
4歳-	2,097	100.7	1,163	934	985	94.6	547	438	1,112	106.8	616	496
5歳-	1,278	56.7	705	573	615	54.5	343	272	663	58.8	362	301
6歳-	703	31.2	392	311	355	31.5	205	150	348	30.9	187	161
7歳-	375	16.6	196	179	182	16.1	92	90	193	17.1	104	89
8歳-	229	10.2	131	98	105	9.3	54	51	124	11.0	77	47
9歳-	120	5.3	78	42	52	4.6	33	19	68	6.0	45	23
10歳以上	180	1.5	116	64	99	1.7	70	29	81	1.4	46	35

*罹患率の計算には2009年人口動態統計の分母に用いる日本人人口を用いた。

**総数の罹患率の計算には、0-4歳日本人人口を用いた。

[表3]患者住所都道府県別、年次別、性別患者数および罹患率(0-4歳人口10万対)

	2007年				2008年				2009年				2010年			
	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*
	総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女	
全国**	11,581	6,684	4,897	215.3	11,756	6,839	4,917	219.9	10,975	6,249	4,726	206.2	12,755	7,266	5,489	239.6
1:北海道	488	285	203	220.8	461	257	204	208.6	401	248	153	196.6	480	291	189	235.3
2:青森	92	42	50	158.6	99	62	37	170.7	102	53	49	204.0	97	57	40	194.0
3:岩手	47	26	21	82.5	74	48	26	129.8	56	32	24	109.8	71	40	31	139.2
4:宮城	201	119	82	197.1	201	115	86	197.1	174	91	83	179.4	210	124	86	216.5
5:秋田	90	49	41	219.5	70	42	28	170.7	55	26	29	148.6	66	43	23	178.4
6:山形	117	56	61	229.4	118	74	44	231.4	108	61	47	240.0	120	67	53	266.7
7:福島	214	113	101	230.1	229	115	114	246.2	179	100	79	213.1	168	103	65	200.0
8:茨城	217	124	93	164.4	226	127	99	171.2	214	118	96	172.6	260	172	88	209.7
9:栃木	226	145	81	248.4	229	151	78	251.6	188	107	81	218.6	227	137	90	264.0
10:群馬	237	134	103	257.6	214	125	89	232.6	221	126	95	260.0	226	142	84	265.9
11:埼玉	531	318	213	168.6	532	309	223	168.9	509	300	209	166.3	565	320	245	184.6
12:千葉	613	357	256	231.3	628	338	290	237.0	565	314	251	214.0	635	365	270	240.5
13:東京	1,184	686	498	248.2	1,174	702	472	246.1	1,086	632	454	214.6	1,331	753	578	263.0
14:神奈川	949	549	400	240.9	972	568	404	246.7	957	530	427	245.4	1,048	600	448	268.7
15:新潟	194	116	78	196.0	178	106	72	179.8	137	82	55	148.9	204	116	88	221.7
16:富山	59	34	25	122.9	75	44	31	156.3	65	29	36	147.7	67	37	30	152.3
17:石川	112	69	43	211.3	100	51	49	188.7	90	52	38	180.0	120	66	54	240.0
18:福井	76	47	29	205.4	104	57	47	281.1	82	49	33	227.8	127	75	52	352.8
19:山梨	54	32	22	142.1	48	30	18	126.3	73	34	39	208.6	69	33	36	197.1
20:長野	225	127	98	225.0	244	134	110	244.0	235	147	88	258.2	285	161	124	313.2
21:岐阜	197	105	92	205.2	183	99	84	190.6	128	60	68	143.8	158	75	83	177.5
22:静岡	341	204	137	197.1	325	188	137	187.9	329	197	132	203.1	375	206	169	231.5
23:愛知	878	493	385	248.0	828	484	344	233.9	783	442	341	227.0	856	494	362	248.1
24:三重	201	105	96	239.3	168	106	62	200.0	163	85	78	206.3	182	98	84	230.4
25:滋賀	97	55	42	140.6	95	59	36	137.7	100	64	36	149.3	122	68	54	182.1
26:京都	254	159	95	226.8	222	128	94	198.2	261	150	111	243.9	289	149	140	270.1
27:大阪	796	457	339	201.5	824	479	345	208.6	694	383	311	185.6	951	526	425	254.3
28:兵庫	545	318	227	215.4	603	368	235	238.3	540	293	247	223.1	619	349	270	255.8
29:奈良	131	74	57	218.3	161	83	78	268.3	102	66	36	182.1	128	81	47	228.6
30:和歌山	118	68	50	281.0	93	55	38	221.4	100	66	34	256.4	140	70	70	359.0
31:鳥取	47	30	17	180.8	39	22	17	150.0	41	26	15	164.0	51	30	21	204.0
32:島根	55	31	24	177.4	55	33	22	177.4	50	35	15	172.4	73	52	21	251.7
33:岡山	126	79	47	143.2	134	78	56	152.3	132	79	53	157.1	183	96	87	217.9
34:広島	264	151	113	204.7	304	176	128	235.7	298	165	133	234.6	339	201	138	266.9
35:山口	99	57	42	162.3	127	68	59	208.2	131	82	49	225.9	113	64	49	194.8
36:徳島	86	47	39	268.8	71	40	31	221.9	82	45	37	273.3	80	49	31	266.7
37:香川	74	48	26	164.4	107	71	36	237.8	95	52	43	220.9	104	58	46	241.9
38:愛媛	147	82	65	241.0	129	75	54	211.5	95	48	47	163.8	120	74	46	206.9
39:高知	51	28	23	164.5	68	33	35	219.4	65	35	30	224.1	60	31	29	206.9
40:福岡	477	275	202	213.9	472	277	195	211.7	504	286	218	221.1	611	327	284	268.0
41:佐賀	65	40	25	162.5	70	47	23	175.0	70	38	32	184.2	83	49	34	218.4
42:長崎	88	56	32	137.5	83	47	36	129.7	86	58	28	143.3	123	71	52	205.0
43:熊本	177	100	77	218.5	211	131	80	260.5	191	115	76	238.8	207	123	84	258.7
44:大分	97	58	39	190.2	108	62	46	211.8	104	56	48	208.0	96	49	47	192.0
45:宮崎	45	24	21	88.2	73	50	23	143.1	69	40	29	135.3	57	30	27	111.8
46:鹿児島	110	65	45	142.9	140	78	62	181.8	149	86	63	198.7	153	83	70	204.0
47:沖縄	87	46	41	106.1	86	46	40	104.9	116	66	50	141.5	105	61	44	128.0
48:国外	2	1	1	—	1	1	0	—	0	0	0	—	1	0	1	—

*2007-2008年の都道府県別罹患率は2005年国勢調査人口、2009-2010年の罹患率は2010年住民基本台帳人口を用いて計算した。

**全国の罹患率は各年次の推計人口を用いて計算した(ただし2010年は2009年の推計人口を使用)。

[表4] 年齢別、性別診断の確実度

		総数 (%)	定型例 (%)	不定型例 (%)	不全型 (%)
総数		23,730 (100)	18,680 (78.7)	618 (2.6)	4,410 (18.6)
性別	男	13,515 (100)	10,674 (79.0)	363 (2.7)	2,467 (18.3)
	女	10,215 (100)	8,006 (78.4)	255 (2.5)	1,943 (19.0)
年齢別	0-5か月	2,212 (100)	1,520 (68.7)	105 (4.7)	585 (26.4)
	6-11か月	3,813 (100)	2,744 (72.0)	119 (3.1)	942 (24.7)
	1歳-	5,602 (100)	4,394 (78.4)	133 (2.4)	1,070 (19.1)
	2歳-	4,223 (100)	3,579 (84.8)	80 (1.9)	564 (13.4)
	3歳-	2,898 (100)	2,428 (83.8)	60 (2.1)	407 (14.0)
	4歳-	2,097 (100)	1,729 (82.5)	46 (2.2)	320 (15.3)
	5歳-	1,278 (100)	1,053 (82.4)	31 (2.4)	192 (15.0)
	6歳-	703 (100)	557 (79.2)	15 (2.1)	131 (18.6)
	7歳-	375 (100)	283 (75.5)	10 (2.7)	82 (21.9)
	8歳-	229 (100)	175 (76.4)	8 (3.5)	46 (20.1)
	9歳-	120 (100)	95 (79.2)	4 (3.3)	21 (17.5)
	10歳以上	180 (100)	123 (68.3)	7 (3.9)	50 (27.8)

「診断の確実度」不明22人は表から除いた。

[表5] 性別、年齢別不全型の主要症状の数

		患者数 (不全型) (%)	主要症状の数 (%)				
			1個	2個	3個	4個	不明*
総数		4,410 (100)	30 (0.7)	271 (6.1)	1,175 (26.6)	2,894 (65.6)	40 (0.9)
性別	男	2,467 (100)	17 (0.7)	158 (6.4)	658 (26.7)	1,606 (65.1)	28 (1.1)
	女	1,943 (100)	13 (0.7)	113 (5.8)	517 (26.6)	1,288 (66.3)	12 (0.6)
年齢別	0-5か月	585 (100)	12 (2.1)	50 (8.5)	171 (29.2)	344 (58.8)	8 (1.4)
	6-11か月	942 (100)	14 (1.5)	86 (9.1)	285 (30.3)	549 (58.3)	8 (0.8)
	1歳-	1,070 (100)	2 (0.2)	62 (5.8)	280 (26.2)	714 (66.7)	12 (1.1)
	2歳-	564 (100)	0 -	19 (3.4)	134 (23.8)	406 (72.0)	5 (0.9)
	3歳-	407 (100)	0 -	19 (4.7)	98 (24.1)	289 (71.0)	1 (0.2)
	4歳-	320 (100)	0 -	13 (4.1)	76 (23.8)	228 (71.3)	3 (0.9)
	5歳-	192 (100)	0 -	8 (4.2)	46 (24.0)	137 (71.4)	1 (0.5)
	6歳-	131 (100)	1 (0.8)	5 (3.8)	37 (28.2)	88 (67.2)	0 -
	7歳-	82 (100)	0 -	3 (3.7)	20 (24.4)	57 (69.5)	2 (2.4)
	8歳-	46 (100)	1 (2.2)	3 (6.5)	9 (19.6)	33 (71.7)	0 -
	9歳-	21 (100)	0 -	0 -	7 (33.3)	14 (66.7)	0 -
	10歳以上	50 (100)	0 -	3 (6.0)	12 (24.0)	35 (70.0)	0 -

*主要症状の数0個(2人)は不明とした。

[表6]種類別、性別、年齢別心障害の出現率

		総数 (%)	巨大瘤 (%)	瘤 (%)	拡大 (%)	狭窄 (%)	心筋梗塞 (%)	弁膜病変 (%)	
急性期異常	総数	23,730 (100)	58 (0.24)	247 (1.04)	1,722 (7.26)	7 (0.03)	2 (0.01)	283 (1.19)	
	性別	男	13,515 (100)	48 (0.36)	172 (1.27)	1,172 (8.67)	5 (0.04)	0 —	161 (1.19)
		女	10,215 (100)	10 (0.10)	75 (0.73)	550 (5.38)	2 (0.02)	2 (0.02)	122 (1.19)
	年齢別	2歳未満	11,627 (100)	22 (0.19)	145 (1.25)	856 (7.36)	5 (0.04)	2 (0.02)	118 (1.01)
		2歳以上	12,103 (100)	36 (0.30)	102 (0.84)	866 (7.16)	2 (0.02)	0 —	165 (1.36)
後遺症	総数	23,730 (100)	53 (0.22)	186 (0.78)	450 (1.90)	7 (0.03)	4 (0.02)	68 (0.29)	
	性別	男	13,515 (100)	42 (0.31)	126 (0.93)	325 (2.40)	4 (0.03)	2 (0.01)	33 (0.24)
		女	10,215 (100)	11 (0.11)	60 (0.59)	125 (1.22)	3 (0.03)	2 (0.02)	35 (0.34)
	年齢別	2歳未満	11,627 (100)	19 (0.16)	94 (0.81)	241 (2.07)	5 (0.04)	3 (0.03)	31 (0.27)
		2歳以上	12,103 (100)	34 (0.28)	92 (0.76)	209 (1.73)	2 (0.02)	1 (0.01)	37 (0.31)

[表7]年齢別、初診時および免疫グロブリン(IG)投与開始時病日の分布

		総数(%)		2歳未満(%)		2歳以上(%)	
初診時 *	総数	23,717	(100)	11,620	(100)	12,097	(100)
	第1病日	1,150	(4.8)	763	(6.6)	387	(3.2)
	第2病日	3,417	(14.4)	2,004	(17.2)	1,413	(11.7)
	第3病日	5,274	(22.2)	2,690	(23.1)	2,584	(21.4)
	第4病日	5,780	(24.4)	2,770	(23.8)	3,010	(24.9)
	第5病日	4,258	(18.0)	1,858	(16.0)	2,400	(19.8)
	第6病日	1,978	(8.3)	790	(6.8)	1,188	(9.8)
	第7病日	909	(3.8)	367	(3.2)	542	(4.5)
	第8病日	423	(1.8)	161	(1.4)	262	(2.2)
	第9病日	201	(0.8)	66	(0.6)	135	(1.1)
	第10病日以上	327	(1.4)	151	(1.3)	176	(1.5)
IG投与開始時 **	総数	21,221	(100)	10,342	(100)	10,879	(100)
	第1病日	17	(0.1)	10	(0.1)	7	(0.1)
	第2病日	249	(1.2)	173	(1.7)	76	(0.7)
	第3病日	1,409	(6.6)	944	(9.1)	465	(4.3)
	第4病日	4,708	(22.2)	2,601	(25.1)	2,107	(19.4)
	第5病日	7,940	(37.4)	3,800	(36.7)	4,140	(38.1)
	第6病日	3,980	(18.8)	1,643	(15.9)	2,337	(21.5)
	第7病日	1,702	(8.0)	670	(6.5)	1,032	(9.5)
	第8病日	645	(3.0)	237	(2.3)	408	(3.8)
	第9病日	262	(1.2)	103	(1.0)	159	(1.5)
	第10病日以上	309	(1.5)	161	(1.6)	148	(1.4)

*初診時病日不明(入院中含む)13人を除く23,717人を集計した。

**IG使用例21,247人のうち1日投与量、投与日数、投与開始時病日不明26人を除く21,221人を集計した。

[表8]年齢別、性別、免疫グロブリン(IG)使用の割合

		総数 (%)		IG使用なし (%)		IG使用あり (%)	
総数		23,730	(100)	2,483	(10.5)	21,247	(89.5)
性別	男	13,515	(100)	1,392	(10.3)	12,123	(89.7)
	女	10,215	(100)	1,091	(10.7)	9,124	(89.3)
年齢別	0-5か月	2,212	(100)	200	(9.0)	2,012	(91.0)
	6-11か月	3,813	(100)	463	(12.1)	3,350	(87.9)
	1歳-	5,602	(100)	611	(10.9)	4,991	(89.1)
	2歳-	4,223	(100)	382	(9.0)	3,841	(91.0)
	3歳-	2,898	(100)	263	(9.1)	2,635	(90.9)
	4歳-	2,097	(100)	189	(9.0)	1,908	(91.0)
	5歳-	1,278	(100)	137	(10.7)	1,141	(89.3)
	6歳-	703	(100)	102	(14.5)	601	(85.5)
	7歳-	375	(100)	52	(13.9)	323	(86.1)
	8歳-	229	(100)	32	(14.0)	197	(86.0)
	9歳-	120	(100)	16	(13.3)	104	(86.7)
	10歳以上	180	(100)	36	(20.0)	144	(80.0)

[表9]免疫グロブリン(IG)使用ありの内訳

		患者数 IG使用あり (%)		IG使用あり (不応例でない) (%)		IG使用あり (不応例) (%)	
総数*		21,247	(100)	17,715	(83.4)	3,532	(16.6)
性別	男	12,123	(100)	9,923	(81.9)	2,200	(18.1)
	女	9,124	(100)	7,792	(85.4)	1,332	(14.6)
年齢別	0-5か月	2,012	(100)	1,696	(84.3)	316	(15.7)
	6-11か月	3,350	(100)	2,889	(86.2)	461	(13.8)
	1歳-	4,991	(100)	4,211	(84.4)	780	(15.6)
	2歳-	3,841	(100)	3,122	(81.3)	719	(18.7)
	3歳-	2,635	(100)	2,177	(82.6)	458	(17.4)
	4歳-	1,908	(100)	1,601	(83.9)	307	(16.1)
	5歳-	1,141	(100)	922	(80.8)	219	(19.2)
	6歳-	601	(100)	498	(82.9)	103	(17.1)
	7歳-	323	(100)	249	(77.1)	74	(22.9)
	8歳-	197	(100)	156	(79.2)	41	(20.8)
	9歳-	104	(100)	79	(76.0)	25	(24.0)
	10歳以上	144	(100)	115	(79.9)	29	(20.1)

*IG使用例21,247人を集計した。

[表10]初回免疫グロブリン(IG)投与施設の内訳

		総数(%)		報告施設で投与(%)		前医で投与(%)	
総数*		21,238	(100)	20,801	(97.9)	437	(2.1)
性別	男	12,115	(100)	11,833	(97.7)	282	(2.3)
	女	9,123	(100)	8,968	(98.3)	155	(1.7)
年齢別	0-5か月	2,011	(100)	1,965	(97.7)	46	(2.3)
	6-11か月	3,350	(100)	3,294	(98.3)	56	(1.7)
	1歳-	4,990	(100)	4,912	(98.4)	78	(1.6)
	2歳-	3,838	(100)	3,752	(97.8)	86	(2.2)
	3歳-	2,633	(100)	2,578	(97.9)	55	(2.1)
	4歳-	1,907	(100)	1,867	(97.9)	40	(2.1)
	5歳-	1,141	(100)	1,111	(97.4)	30	(2.6)
	6歳-	601	(100)	582	(96.8)	19	(3.2)
	7歳-	323	(100)	314	(97.2)	9	(2.8)
	8歳-	196	(100)	188	(95.9)	8	(4.1)
	9歳-	104	(100)	97	(93.3)	7	(6.7)
10歳以上	144	(100)	141	(97.9)	3	(2.1)	

*IG使用例21,247人のうち1日投与量、投与日数不明9人を除く21,238人を集計した。

[表11]初回免疫グロブリン(IG)1日投与量(mg/kg)別、投与日数の分布

		総数および%		1日	2日	3日	4日	5日以上
総数*		21,238	100	19,530	1,671	9	1	27
		(100)		(91.96)	(7.87)	(0.04)	(0.005)	(0.13)
-299mg/kg		4	0.02	1	0	1	0	2
300-499mg/kg		23	0.11	1	3	4	0	15
500-699mg/kg		11	0.05	2	1	2	1	5
700-899mg/kg		14	0.07	3	7	0	0	4
900-1099mg/kg		2,907	13.69	1,279	1,625	2	0	1
1100-1299mg/kg		44	0.21	32	12	0	0	0
1300-1499mg/kg		4	0.02	4	0	0	0	0
1500-1699mg/kg		22	0.10	22	0	0	0	0
1700-1899mg/kg		136	0.64	136	0	0	0	0
1900-2099mg/kg		17,943	84.49	17,920	23	0	0	0
2100mg/kg+		130	0.61	130	0	0	0	0
再掲	200mg/kg	3	0.01	0	0	1	0	2
	400mg/kg	20	0.09	0	2	3	0	15
	1000mg/kg	2,803	13.20	1,246	1,554	2	0	1
	2000mg/kg	17,547	82.62	17,525	22	0	0	0
	その他	865	4.07	759	93	3	1	9

*IG使用例21,247人のうち1日投与量、投与日数不明9人を除く21,238人を集計した。

()内は横向きの数値を示す。

[表12] 性別、年齢別、診断別初回免疫グロブリン(IG)投与後の追加治療法

		総数 (%)	IG追加投与(%) ***	ステロイド投与 (%)	infiximab投与 (%)	免疫抑制剤投与 (%)	血漿交換 (%)
総数*		21,247 (100)	4,049 (19.1)	1,390 (6.5)	194 (0.9)	172 (0.8)	105 (0.5)
性別	男	12,123 (100)	2,510 (20.7)	857 (7.1)	133 (1.1)	113 (0.9)	72 (0.6)
	女	9,124 (100)	1,539 (16.9)	533 (5.8)	61 (0.7)	59 (0.6)	33 (0.4)
年齢別	2歳未満	10,353 (100)	1,839 (17.8)	603 (5.8)	64 (0.6)	101 (1.0)	55 (0.5)
	2歳以上	10,894 (100)	2,210 (20.3)	787 (7.2)	130 (1.2)	71 (0.7)	50 (0.5)
診断別**	定型例	17,641 (100)	3,591 (20.4)	1,223 (6.9)	176 (1.0)	151 (0.9)	97 (0.5)
	不定型例	551 (100)	108 (19.6)	39 (7.1)	7 (1.3)	4 (0.7)	2 (0.4)
	不全型	3,053 (100)	349 (11.4)	127 (4.2)	10 (0.3)	17 (0.6)	6 (0.2)

*初回IG使用例 21,247人を集計した。

**初回IG使用例 21,247人のうち診断不明2人は除いた。

1人の患者に複数の治療法を用いている例がある。

***再燃時のIG投与を含む

[表13] 性別、年齢別、診断別初回免疫グロブリン(IG)投与後の追加治療法(初回IG不応例)

		総数 (%)	IG追加投与 (%)	ステロイド投与 (%)	infiximab投与 (%)	免疫抑制剤投与 (%)	血漿交換 (%)
総数*		3,532 (100)	3,231 (91.5)	1,025 (29.0)	151 (4.3)	129 (3.7)	79 (2.2)
性別	男	2,200 (100)	2,004 (91.1)	653 (29.7)	105 (4.8)	84 (3.8)	53 (2.4)
	女	1,332 (100)	1,227 (92.1)	372 (27.9)	46 (3.5)	45 (3.4)	26 (2.0)
年齢別	2歳未満	1,557 (100)	1,441 (92.5)	442 (28.4)	46 (3.0)	76 (4.9)	38 (2.4)
	2歳以上	1,975 (100)	1,790 (90.6)	583 (29.5)	105 (5.3)	53 (2.7)	41 (2.1)
診断別**	定型例	3,138 (100)	2,897 (92.3)	905 (28.8)	136 (4.3)	113 (3.6)	74 (2.4)
	不定型例	89 (100)	81 (91.0)	31 (34.8)	5 (5.6)	3 (3.4)	1 (1.1)
	不全型	304 (100)	252 (82.9)	88 (28.9)	9 (3.0)	13 (4.3)	4 (1.3)

*初回IG使用例 21,247人のうち不応例3,532人を集計した。

**不応例のうち診断不明1人は除いた。

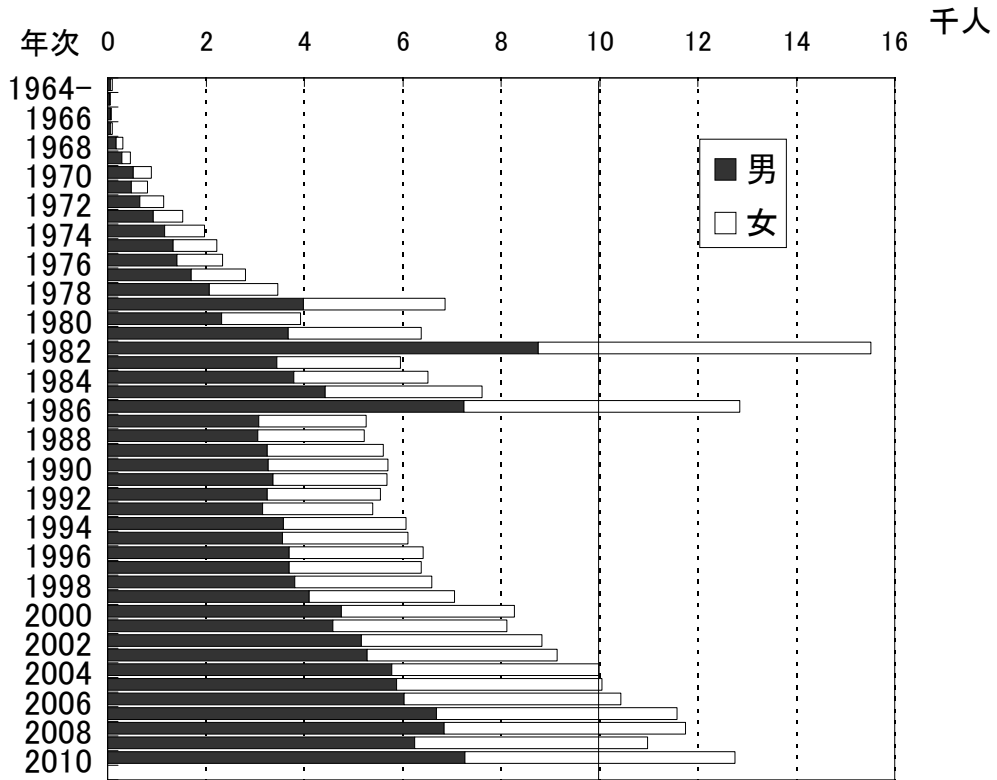
1人の患者に複数の治療法を用いている例があるので、横の合計は総数を超えることがある。

[表14]性別、年齢別、診断別合併症の割合

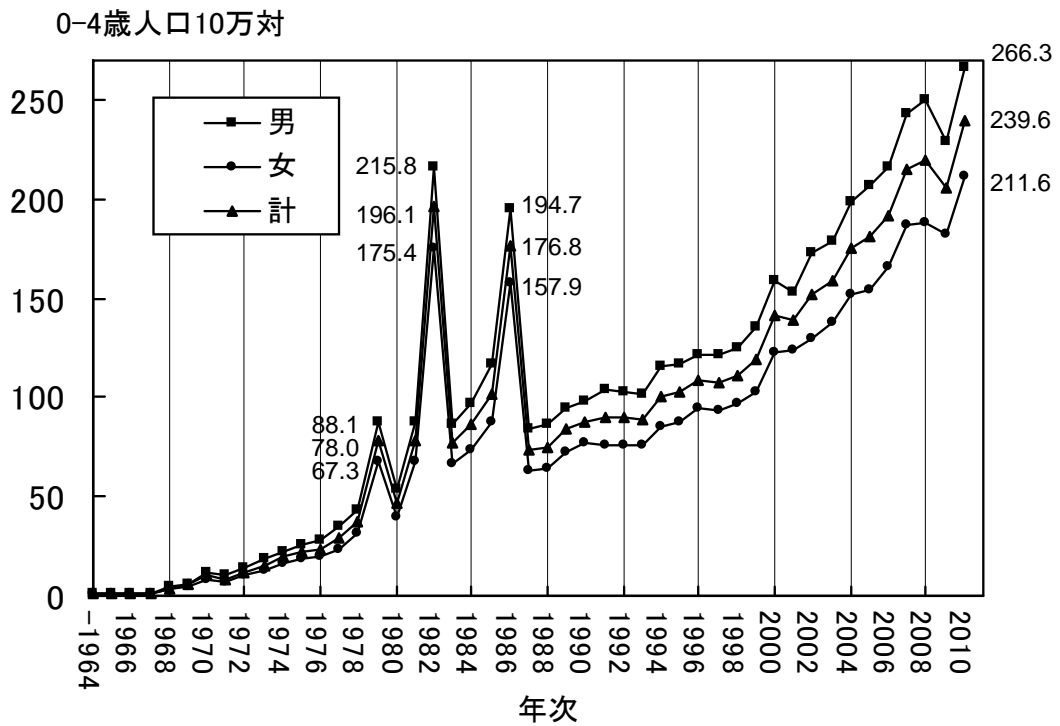
		患者数 (%)	合併症の種類(%)					
			脳炎・脳症	重症 心筋炎	頻脈性 不整脈	嘔吐・下痢	気管支炎・ 肺炎	肉眼的血尿
総数		23,730 (100)	22 (0.09)	38 (0.16)	17 (0.07)	1,045 (4.40)	613 (2.58)	10 (0.04)
性別	男	13,515 (100)	12 (0.09)	20 (0.15)	12 (0.09)	591 (4.37)	359 (2.66)	8 (0.06)
	女	10,215 (100)	10 (0.10)	18 (0.18)	5 (0.05)	454 (4.44)	254 (2.49)	2 (0.02)
年齢別	0-5か月	2,212 (100)	5 (0.23)	1 (0.05)	1 (0.05)	105 (4.75)	67 (3.03)	0 -
	6-11か月	3,813 (100)	1 (0.03)	0 -	2 (0.05)	184 (4.83)	118 (3.09)	2 (0.05)
	1歳-	5,602 (100)	1 (0.02)	2 (0.04)	4 (0.07)	210 (3.75)	167 (2.98)	2 (0.04)
	2歳-	4,223 (100)	3 (0.07)	1 (0.02)	2 (0.05)	160 (3.79)	107 (2.53)	1 (0.02)
	3歳-	2,898 (100)	0 -	7 (0.24)	1 (0.03)	138 (4.76)	62 (2.14)	2 (0.07)
	4歳-	2,097 (100)	2 (0.10)	9 (0.43)	4 (0.19)	88 (4.20)	37 (1.76)	1 (0.05)
	5歳-	1,278 (100)	2 (0.16)	7 (0.55)	0 -	71 (5.56)	26 (2.03)	0 -
	6歳-	703 (100)	2 (0.28)	3 (0.43)	1 (0.14)	30 (4.27)	11 (1.56)	1 (0.14)
	7歳-	375 (100)	1 (0.27)	3 (0.80)	1 (0.27)	21 (5.60)	7 (1.87)	1 (0.27)
	8歳-	229 (100)	3 (1.31)	1 (0.44)	1 (0.44)	14 (6.11)	4 (1.75)	0 -
	9歳-	120 (100)	0 -	0 -	0 -	7 (5.83)	3 (2.50)	0 -
	10歳以上	180 (100)	2 (1.11)	4 (2.22)	0 -	17 (9.44)	4 (2.22)	0 -
診断別*	定型例	18,680 (100)	15 (0.08)	32 (0.17)	15 (0.08)	815 (4.36)	457 (2.45)	6 (0.03)
	不定型例	618 (100)	2 (0.32)	3 (0.49)	0 -	31 (5.02)	22 (3.56)	1 (0.16)
	不全型	4,410 (100)	5 (0.11)	3 (0.07)	2 (0.05)	198 (4.49)	134 (3.04)	3 (0.07)

*診断不明22人は除いた。
1人の患者で複数の合併症例がある。

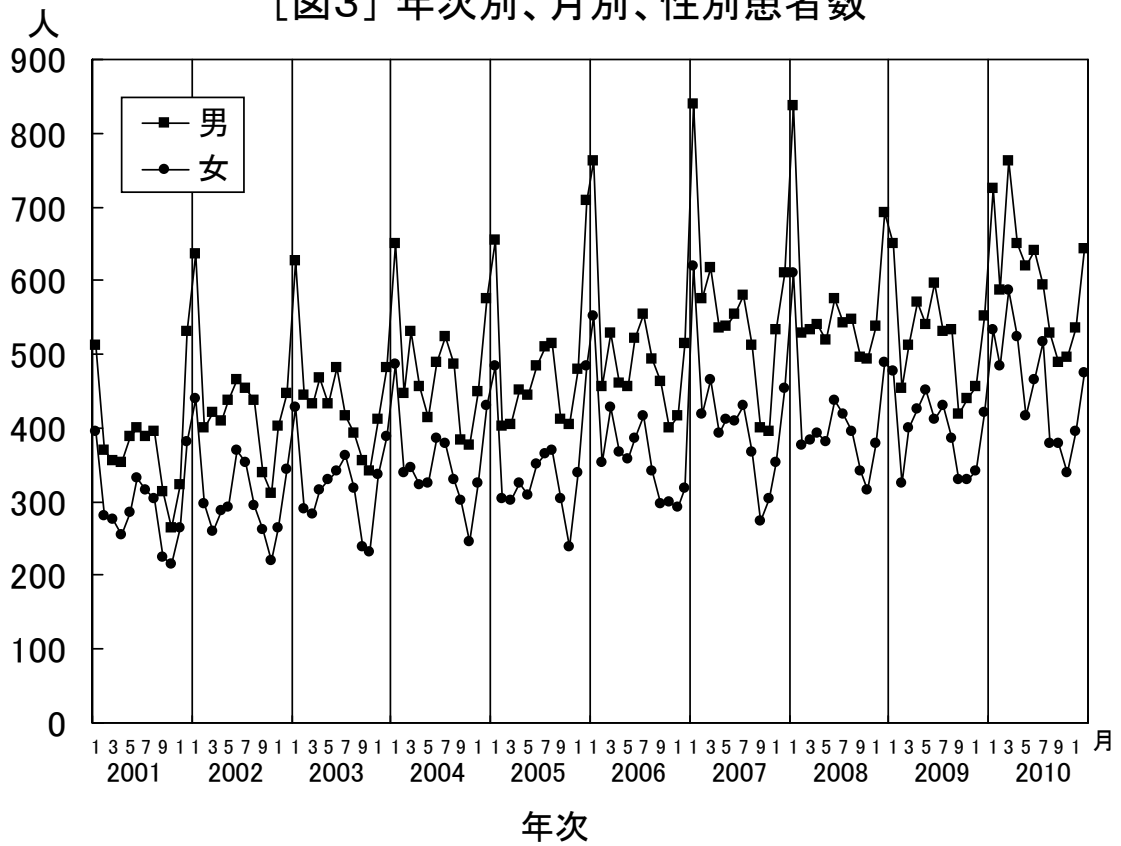
[図1] 年次別、性別患者数



[図2] 年次別、性別罹患率

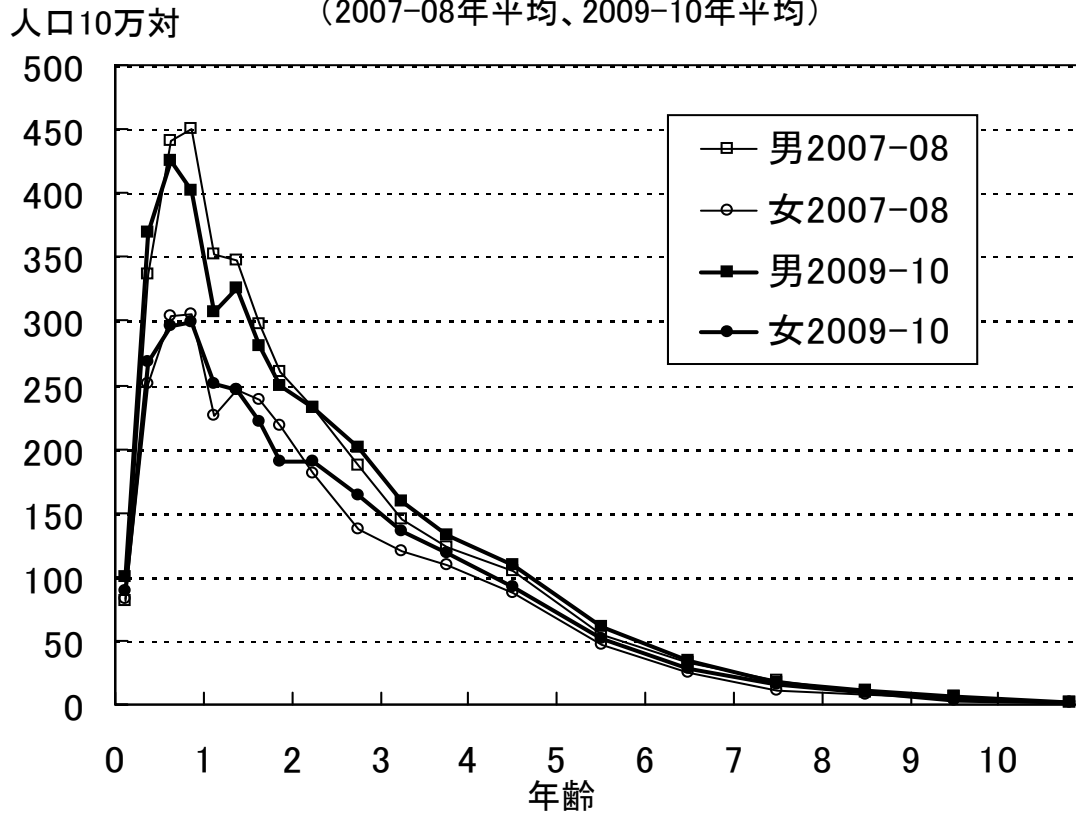


[図3] 年次別、月別、性別患者数



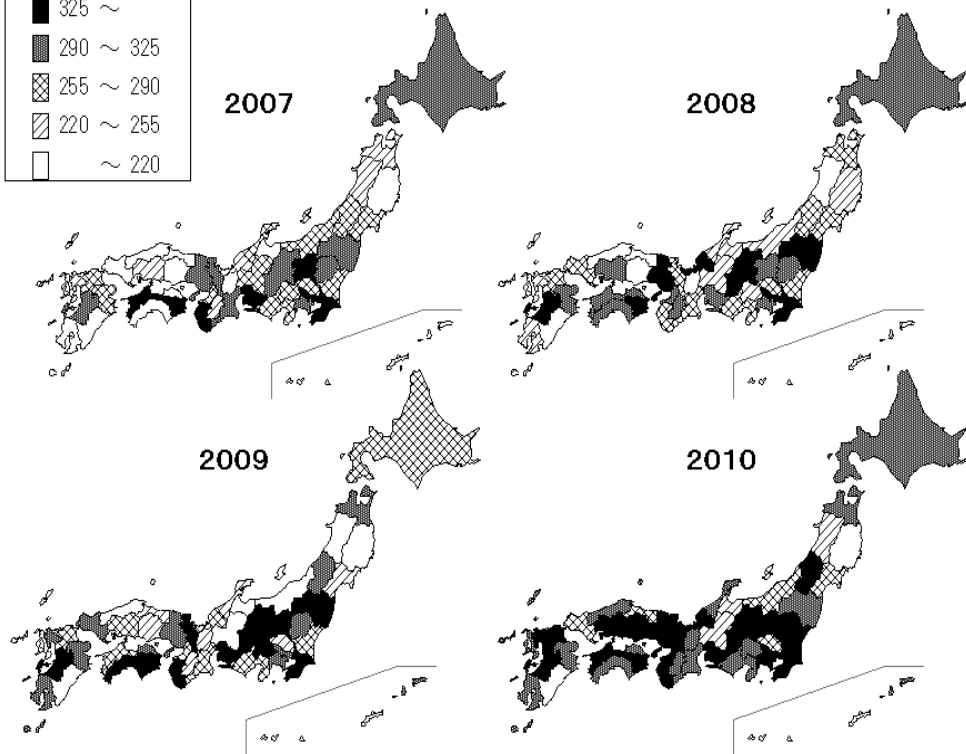
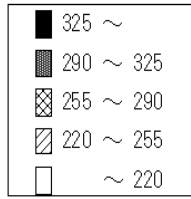
[図4] 年次別、性別、年齢別罹患率

(2007-08年平均、2009-10年平均)

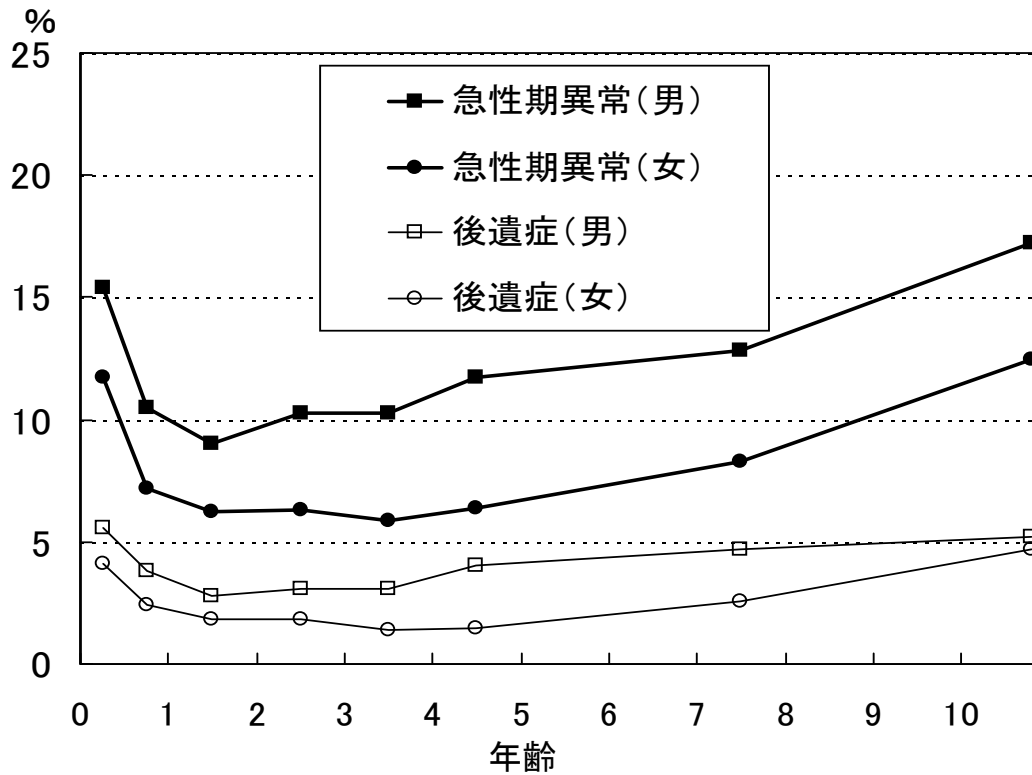


[図5] 年次別、都道府県別罹患率

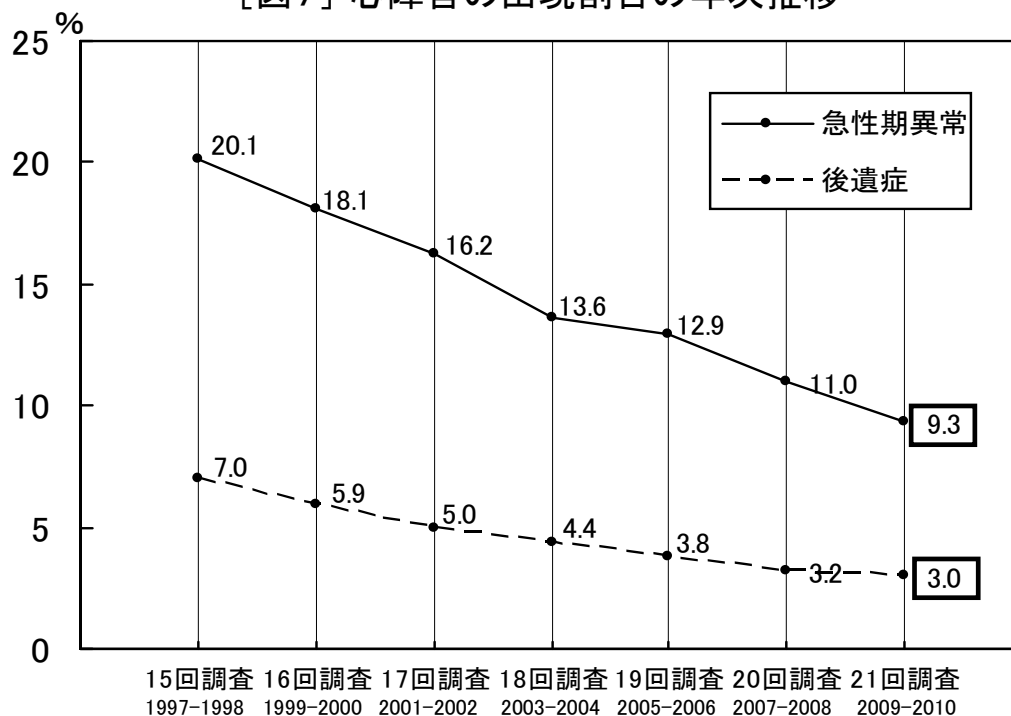
回収率補正值
0-4歳人口10万対



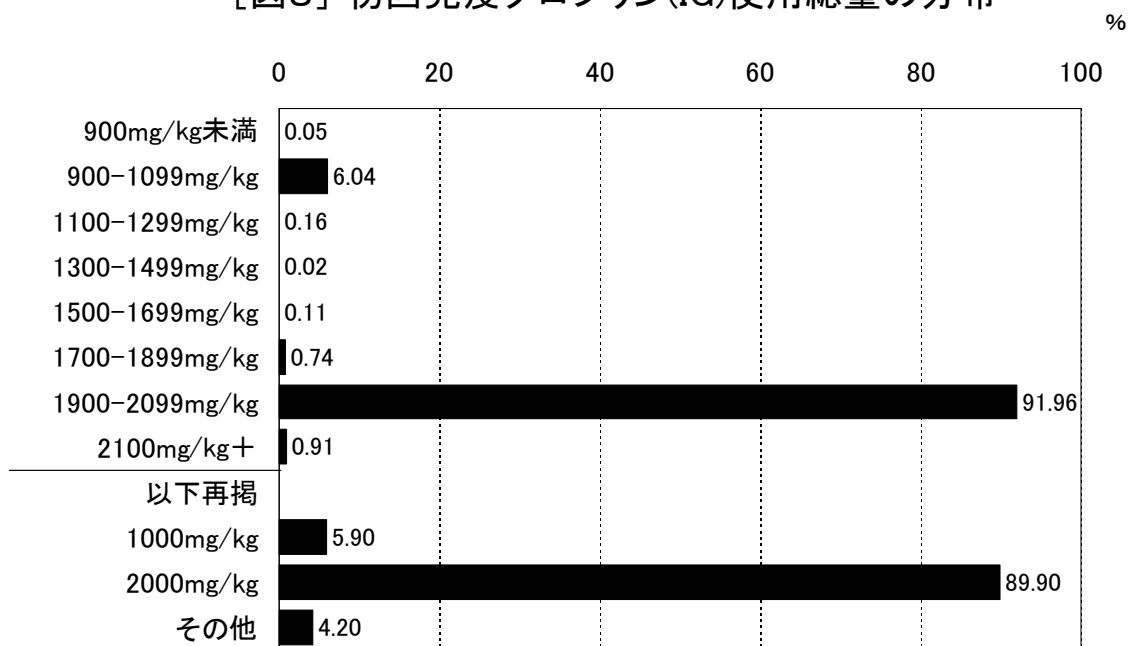
[図6] 性別、年齢別心障害の出現率



[図7] 心障害の出現割合の年次推移



[図8] 初回免疫グロブリン(IG)使用総量の分布



* 初回IG使用例21,247人のうち1日投与量、投与日数不明9人を除く21,238人を集計

第21回全国調査協力施設名（都道府県別、順不同）

1. 北海道

独立行政法人国立病院機構旭川医療センター
独立行政法人国立病院機構八雲病院
国立大学法人北海道大学病院
札幌鉄道病院
NTT 東日本札幌病院
札幌医科大学附属病院
道立旭川肢体不自由児総合療育センター
道立羽幌病院
市立札幌病院
市立小樽病院
市立函館病院
江別市立病院
市立千歳市民病院
市立三笠総合病院
岩見沢市立総合病院
市立美瑛病院
砂川市立病院
市立赤平総合病院
深川市立病院
市立旭川病院
名寄市立総合病院
市立室蘭総合病院
苫小牧市立病院
白老町立国民健康保険病院
公立芽室病院
市立根室病院
町立別海病院
市立稚内病院
留萌市立病院
旭川赤十字病院
総合病院伊達赤十字病院
浦河赤十字病院
清水赤十字病院
総合病院釧路赤十字病院
社会事業協会・函館病院
社会事業協会・余市病院
岩内協会病院
社会事業協会・帯広病院
JA 北海道厚生連札幌厚生病院
JA 北海道厚生連旭川厚生病院
JA 北海道厚生連網走厚生病院
JA 北海道厚生連遠軽厚生病院
北海道社会保険病院
社会医療法人母恋日鋼記念病院
函館五稜郭病院
共愛会病院
天使病院
勤医協札幌病院
札幌社会保険総合病院
五輪橋産科婦人科小児科病院
慶愛病院
北楡会札幌北楡病院
北翔会札幌あゆみの園
北海道立子ども総合医療・療育センター
独立行政法人国立病院機構帯広病院
自衛隊札幌病院
KKR 札幌医療センター
国立大学法人旭川医科大学医学部附属病院
（財）小児愛育協会附属愛育病院
北海道療育園
勤医協中央病院
（医社）友愛会恵愛病院
長生会病院
新雨竜第一病院
医療法人社団敬愛会白樺台病院
美幌療育病院
医療法人浩仁会恵庭第一病院
市立士別総合病院
札幌マタニティウイメンズ[®]ホスピタル

医療法人徳洲会札幌徳洲会病院
手稲溪仁会病院
（医療法人）道南勤医協函館稜北病院
（医療法人）北晨会恵み野病院
豊岡中央病院
斜里町国民健康保険病院
JA 北海道厚生連帯広厚生病院

2. 青森県

独立行政法人国立病院機構弘前病院
国立大学法人弘前大学医学部附属病院
青森県立中央病院
青森市民病院
八戸市立市民病院
黒石市国保黒石病院
国民健康保険鶴田町立中央病院
国民健康保険五所川原市立西北中央病院
鯉ヶ沢町立中央病院
公立野辺地病院
むつ総合病院
町立大鰐病院
独立行政法人国立病院機構八戸病院
市立三次病院
弘前市立病院
（財）双仁会 厚生病院
青森労災病院
独立行政法人国立病院機構青森病院
財団法人鷹揚郷腎研究所弘前病院
津軽保健生活協同組合健生病院
美保野病院
医療法人赤心会十和田東病院

3. 岩手県

岩手県立釜石病院
岩手県立磐井病院
岩手県立高田病院
岩手県立大船渡病院
岩手県立久慈病院
岩手県立二戸病院
盛岡赤十字病院
北上済生会病院
一関病院
岩手医科大学附属病院
岩手医科大学病院附属循環器医療センター
岩手県立中部病院
独立行政法人国立病院機構盛岡病院
岩手県立山田病院
独立行政法人国立病院機構岩手病院
川久保病院
岩手県立遠野病院
東八幡平病院
岩手県立千歳病院

4. 宮城県

国立病院機構仙台医療センター
独立行政法人国立病院機構宮城病院
J R 仙台病院
仙台市立病院
塩釜市立病院
大崎市民病院
気仙沼市立病院
公立志津川総合病院
公立刈田総合病院
みやぎ県南中核病院
公立黒川病院
総合病院仙台赤十字病院
東北公済病院
（財）宮城厚生協会坂総合病院
（医療）本多友愛会仙南病院
医療法人浄仁会大泉記念病院

真壁病院
石巻市立病院
エコー療育園
スズキ記念病院
独立行政法人国立病院機構西多賀病院
光ヶ丘スペルマン病院
東北労災病院
自衛隊仙台病院
N T T 東日本東北病院
（財）宮城厚生協会 長町病院
宮城県拓桃医療療育センター
公立米谷病院

5. 秋田県

大館市立総合病院
男鹿みなと市民病院
秋田市立秋田総合病院
仙北市立角館総合病院
市立横手病院
秋田赤十字病院
鹿角組合総合病院
湖東総合病院
秋田組合総合病院
由利組合総合病院
平鹿総合病院
雄勝中央病院
中通総合病院
外旭川病院
秋田社会保険病院
市立大森病院
秋田大学医学部附属病院
北秋田市立市民病院
藤原記念病院

6. 山形県

山形県立中央病院
山形県立新庄病院
天童市民病院
山形市立病院済生館
鶴岡市立荘内病院
公立高島病院
米沢市立病院
済生会 山形済生病院
（医療）篠田好生会篠田総合病院
日本海総合病院
公立置賜総合病院
新庄徳洲会病院
山形県立河北病院
山形大学医学部附属病院
鶴岡協立病院
独立行政法人国立病院機構山形病院

7. 福島県

福島県立医科大学附属病院
公立藤田総合病院
公立岩瀬病院
いわき市立総合磐城共立病院
総合病院福島赤十字病院
白河厚生総合病院
塙厚生病院
坂下厚生総合病院
（財）大原総合病院
寿泉堂総合病院
（財）竹田総合病院
（財）常磐病院
（財）太田総合病院附属太田西/内病院
（財）脳神経疾患研究所附属総合南東北病院
総合会津中央病院
新生会内科小児科佐藤病院
独立行政法人国立病院機構福島病院

福島県厚生農協組合連双葉厚生病院
(財)星総合病院
(財)松村総合病院
医療生協わたり病院
福島県総合療育センター
医療法人三愛会池田温泉病院
公立相馬総合病院

8. 茨城県

独立行政法人国立病院機構霞ヶ浦医療センター
茨城県立こども福祉医療センター
茨城県立中央病院
水戸済生会総合病院
神栖済生会病院
国公共済連水府病院
総合病院東京医科大学霞ヶ浦病院
日立製作所 ひたちなか総合病院
石岡第一病院
県立こども病院
双愛会つくば双愛病院
茨城県立医療大学附属病院
威恵会三岳荘小松崎病院
なめがた地域総合病院
龍ヶ崎済生会病院
医療法人 みつなみ会 古河病院
県西総合病院
(医療)愛宣会 秦病院
(医療)盡誠会 宮本病院
株式会社日立製作所日立総合病院
(財)鹿島病院
筑波大学附属病院
(医療)愛正会 田尻ヶ丘病院
惇慈会日立港病院
(医療)常仁会牛久愛和総合病院
(財)筑波学園病院
友愛記念病院
北茨城市立総合病院
総合病院取手協同病院
高萩協同病院
医療法人清真会丹野病院
財団法人筑波メディカルセンター病院
きぬ医師会病院
茨城西南医療センター病院

9. 栃木県

独立行政法人国立病院機構栃木病院
小山市民病院
芳賀赤十字病院
足利赤十字病院
済生会 宇都宮病院
上都賀総合病院
国際医療福祉大学塩谷病院
佐野厚生総合病院
宇都宮社会保険病院
日光市民病院
社会医療法人博愛会 菅間記念病院
独立行政法人国立病院機構宇都宮病院
光南病院
南那須地区広域行政事務組合立那須南病院
あしかがの森 足利病院
自治医科大学附属病院
獨協医科大学病院小児科
黒須病院
(医療)明倫会 今市病院
菅又病院
とちぎりハビリテーションセンター
西方病院
とちの木病院
佐野医師会病院

10. 群馬県

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター
独立行政法人国立病院機構沼田病院
渋川総合病院
群馬大学医学部附属病院

桐生厚生総合病院
藤岡総合病院
碓氷病院
伊勢崎市民病院
館林厚生病院
前橋赤十字病院
原町赤十字病院
公立富岡総合病院
社保群馬中央総合病院
富士重工業健康保険組合総合太田病院
利根中央病院
本島総合病院
群馬県立小児医療センター
両毛整肢療護園
関越中央病院
西吾妻福祉病院
産科婦人科館出張佐藤病院
伊勢崎佐波医師会病院
済生会前橋病院
前橋協立病院
(医療)山崎会サンビエール病院
重症心身障害児施設はんなさわらび療育園
希望の家療育病院
群馬整肢療護園
高崎中央病院
小児科佐藤病院
太田福島総合病院

11. 埼玉県

独立行政法人国立病院機構西埼玉中央病院
蕨市立病院
春日部市立病院
草加市立病院
さいたま赤十字病院
総合病院小川赤十字病院
埼玉県済生会川口総合病院
埼玉厚生農協連熊谷総合病院
埼玉社会保険病院
社保大宮総合病院
(財)東松山医師会病院
戸田中央総合病院
(医療)健仁会 益子病院
(医療)へブロン会大宮中央総合病院
丸山記念総合病院
聖蹟会 埼玉県中央病院
埼玉県済生会栗橋病院
北里研究所メディカルセンター病院
へリオス会病院
聖心会南古谷病院
秩父市立病院
本庄総合病院
土屋小児病院
清水病院
三愛会総合病院
埼玉医療生活協同組合皆野病院
医療法人社幸会 行田総合病院
さいたま市民医療センター
飯能中央病院
埼玉医科大学病院
さいたま市立病院
独立行政法人国立病院機構東埼玉病院
越谷市立病院
(医社)協友会 吉川中央総合病院
朝霞台中央総合病院
(医社)協友会八潮中央総合病院
防衛医科大学校病院
(医療)聖仁会 西部総合病院
(医社)東光会 戸田中央産院
埼玉協同病院
至誠堂富田病院
(医社)青葉会 新座病院
(医療)関越病院
(医療)誠壽会 上福岡総合病院
医療法人社団協友会東川口病院
埼玉医療生活協同組合羽生病院

獨協医科大学越谷病院
東鷲宮病院
医療法人財団健和会みさと健和病院
埼玉筑波病院
医療法人赤心堂病院
関本記念病院
行田中央病院
社会医療法人財団石心会狭山病院
至聖病院

12. 千葉県

独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
独立行政法人国立病院機構下志津病院
千葉大学医学部附属病院
千葉県立東金病院
千葉県循環器病センター
千葉市立青葉病院
東京ベイ・浦安市川医療センター
国保松戸市立病院
成田赤十字病院
千葉県済生会習志野病院
JFE健保組合川鉄千葉病院
(医療)鉄蕉会 亀田総合病院
東京歯科大学市川総合病院
キッコーマン総合病院
医療法人社団聖仁会白井聖仁会病院
加藤病院
東邦大学医学部附属佐倉病院
野田病院
日本医科大学附属千葉北総病院
国保多古中央病院
医療法人鳳生会 成田病院
東京女子医科大学附属八千代医療センター
国保小見川総合病院
(医療)聖峰会 岡田病院
独立行政法人国立病院機構千葉東病院
(医社)千葉健生病院
医療法人社団聖仁会我孫子聖仁会病院
千葉県千葉リハビリテーションセンター
(医財)明理会新松戸中央総合病院
聖隷佐倉市民病院
(医社)上総会 山之内病院
(医療)公明会 塩田病院
(医社)勤労者医協船橋二和病院
(医社)協友会 船橋総合病院
(医社)協友会 柏厚生総合病院
東葛病院
千葉市立海浜病院
順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院
船橋市立医療センター
(医社)愛友会 千葉愛友会記念病院
医療法人社団保健会谷津保健病院
医療法人三矢会八街総合病院
帝京大学ちば総合医療センター
東京慈恵会医科大学附属柏病院

13. 東京都

国立がんセンター中央病院
独立行政法人国立国際医療研究センター病院
国立成育医療研究センター
独立行政法人国立病院機構東京医療センター
東京医科歯科大学病院
NTT 東日本関東病院
東京通信病院
自衛隊中央病院
都立駒込病院
都立墨東病院
都立荏原病院
都立広尾病院
東京都立大塚病院
都立北療育医療センター
都立豊島病院
青梅市立総合病院
日野市立病院
稲城市立病院

公立昭和病院
総合病院大森赤十字病院
日本赤十字社医療センター
武蔵野赤十字病院
東京都済生会中央病院
公立福生病院
社保蒲田総合病院
東京厚生年金病院
せんぼ東京高輪病院
総合病院三宿病院
聖路加国際病院
北里研究所病院
永寿総合病院
(医社) 江東病院
田園調布中央病院
世田谷中央病院
荻窪病院
(医社) 関川病院
(医社) 大坪会 北多摩病院
杏林大学医学部付属病院
日本大学駿河台病院
東京慈恵会医科大学病院
東京女子医科大学病院
慶應義塾大学病院
東京医科大学病院
日本医科大学病院
順天堂大学附属順天堂医院
昭和大学病院
東邦大学医療センター大橋病院
東邦大学 大森病院
東京女子医科大学東医療センター
日本大学医学部附属板橋病院
東京慈恵会医科大学附属青戸病院
東京慈恵会医科大学附属病院第3病院
小平記念東京日立病院
東芝病院
三井記念病院
母子愛育会総合母子保健センター愛育病院
(社福) 聖母会 聖母病院
浅草寺病院
同愛記念病院
久我山病院
東京医療生協組合 中野総合病院
立正佼成会 附属佼成病院
東京衛生病院
(社福) 勝楽堂病院
(社福) 仁生社 江戸川病院
健貢会 東京病院
(社福) 東京都同胞援護会昭島病院
(社福) 鶴風会東京小児療育病院
(医社) 時正会 佐々総合病院
まつしま産婦人科小児科病院
独立行政法人国立病院機構災害医療センター
五葉会ファウンズ産婦人科病院
都立東大和療育センター
日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院
医療法人社団久保田産婦人科病院
東京大学医科学研究所附属病院
東京臨海病院
東海大学医学部付属八王子病院
東京北社会保険病院
東京都立小児総合医療センター
(医財) 健康文化会 小豆沢病院
緑風荘病院
森本病院
(医社) 誠志会 誠志会病院
日本医科大学 多摩永山病院
秋津療育園
(社福) 聖ヨハネ会桜町病院
(医社) 板橋中央総合病院
(医社) 水野クリニック
東京医科大学八王子医療センター
国立精神神経医療研究センター病院
医療法人社団健生会立川相互病院
高澤病院

東京労災病院
日本大学医学部附属練馬光が丘病院
医療法人社団大坪会東和病院
医療法人社団日心会総合病院一心病院

14. 神奈川県

独立行政法人国立病院機構横浜医療センター
横須賀市立うわまち病院
独立行政法人国立病院機構相模原病院
独立行政法人国立病院機構神奈川病院
厚木市立病院
神奈川県立足柄上病院
横浜市立大学附属市民総合医療センター小児
総合医療センター
横浜市立市民病院
川崎市立川崎病院
平塚市民病院
茅ヶ崎市立病院
小田原市立病院
大和市立病院
横浜市立みなと赤十字病院
川崎社会保険病院
横浜船員保険病院
住友重機械健保組合 浦賀病院
横浜栄共済病院
横須賀共済病院
国公共済連総合病院平塚共済病院
(財) 神奈川県警友会けいゆう病院
大口東総合病院
(医療) 柏堤会 戸塚共立おとキッズクリニック
京浜総合病院
総合川崎臨港病院
(医療) 愛仁会 太田総合病院
(医社) 亮正会総合高津中央病院
日本医科大学 武蔵小杉病院
日本鋼管病院
国際親善総合病院
総合病院 聖ヨゼフ病院
(社福) 湘南福祉協会総合病院湘南病院
鈴木病院
医療法人産育会堀病院
医療法人大樹会佐藤病院
湘南鎌倉総合病院
新横浜母と子の病院
独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院
横浜市立大学医学部附属病院
一成会たちばなタククリニック
昭和大学横浜市北部病院
重症心身障害児(者)施設横浜療育医療センター
済生会横浜市東部病院こどもセンター
聖隷横浜病院
関東労災病院
総合病院秦野赤十字病院
伊勢原協同病院
国公共済連 虎の門病院分院
神奈川県立こども医療センター
藤沢市民病院
(財) 横浜勤労者福祉協会汐田総合病院
昭和大学 藤が丘病院
聖マリアンナ医科大学病院
東海大学病院
北里大学病院
帝京大学 溝口病院
川崎医療生協 川崎協同病院
相模台病院
済生会 横浜市南部病院
神奈川県立汐見台病院
(医社) 青葉会 牧野記念病院
横須賀市立市民病院
(医療) 徳洲会 大和徳洲会病院
桜ヶ丘中央病院
(医療) 徳洲会茅ヶ崎徳洲会総合病院
(医社) 愛友会 金沢文庫病院
東海大学医学部附属大磯病院

(医社) JMA 海老名総合病院
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
医療法人社団緑成会横浜総合病院
医療法人社団相模会綾瀬厚生病院

15. 新潟県

新潟大学医学部附属病院
新潟県立ガンセンター新潟病院
新潟県立新発田病院
新潟県立吉田病院
新潟県立小出病院
新潟県立六日町病院
新潟県立十日町病院
新潟県立中央病院
町立津南病院
済生会 三条病院
豊栄病院
長岡中央総合病院
魚沼病院
上越総合病院
けいなん病院
糸魚川総合病院
佐渡総合病院
小千谷総合病院
(医療) 立川総合病院
済生会新潟第二病院
共生会中条中央病院
新潟市民病院
聖園病院
木戸病院
佐渡市立両津病院
独立行政法人国立病院機構さいがた病院
新潟県はまぐみ小児療育センター
新津医療センター病院
国民健康保険町立ゆきぐに大和総合病院
新潟県立坂町病院
独立行政法人国立病院機構西新潟中央病院
白根健生病院
長岡療育園
厚生連村上総合病院

16. 富山県

富山市立富山市民病院
黒部市民病院
高岡市民病院
かみいち総合病院
射水市民病院
富山県済生会 富山病院
厚生連高岡病院
厚生連滑川病院
社会保険 高岡病院
三田会高岡みなみ病院
公立南砺中央病院
南砺市民病院
独立行政法人国立病院機構富山病院
氷見市民病院
富山大学附属病院
あさひ総合病院
八尾総合病院

17. 石川県

金沢大学医学部附属病院
石川県立中央病院
金沢市立病院
国保小松市民病院
公立能登総合病院
加賀市民病院
市立輪島病院
金沢赤十字病院
公立松任石川中央病院
金沢社会保険病院
金沢聖霊総合病院
恵寿総合病院
恵愛病院
荒木病院

金沢有松病院
浅ノ川総合病院
独立行政法人国立病院機構医王病院
珠洲市総合病院
金沢医科大学病院
金沢こども医療センター
金沢西病院
独立行政法人国立病院機構七尾病院
独立行政法人国立病院機構石川病院
公立穴水総合病院
医療法人社団和楽仁辰口芳珠記念病院

18. 福井県

独立行政法人 国立病院機構 福井病院
公立丹南病院
福井県立病院
坂井市立三国病院
市立敦賀病院
公立小浜病院
福井赤十字病院
福井県済生会病院
福井社会保険病院
岩井病院
福井県こども療育センター
大滝病院
新田塚医療福祉センター福井総合病院
笠原病院
福井心臓血管センター福井循環器病院
(医療) 福井愛育病院
福井大学医学部附属病院

19. 山梨県

山梨県立中央病院
韮崎市立病院
北杜市立甲陽病院
富士吉田市立病院
巨摩共立病院
塩山市民病院
都留市立病院
桃花会一宮温泉病院
石和共立病院
山梨赤十字病院
甲府共立病院
山梨厚生病院
大月市立中央病院
山梨大学医学部附属病院

20. 長野県

独立行政法人国立病院機構長野病院
信州大学医学部附属病院
長野県立阿南病院
長野県立木曾病院
長野県立須坂病院
諏訪中央病院
市立岡谷病院
伊那中央病院
市立大町総合病院
諏訪赤十字病院
下伊那赤十字病院
豊科赤十字病院
長野赤十字病院
飯山赤十字病院
J A 長野厚生連 佐久総合病院
J A 長野厚生連 北信総合病院
長野厚生農協連 新町病院
(医療) 慈泉会 相澤病院
長野中央病院
長野市民病院
中信勤労者医療協会塩尻協立病院
佐久市立国保浅間総合病院
国立病院機構まつもと医療センター中信松本病院
昭和伊南総合病院
飯田市立病院
城西病院
国保依田窪病院

長野県厚生農業組合連合会富士見高原病院
長野県厚生農業組合連合会篠ノ井総合病院
医療法人新生病院
長野県厚生連長野松代総合病院
御代田中央記念病院
健和会病院
松本市立波田総合病院
松本協立病院

21. 岐阜県

国立病院機構長良医療センター
岐阜県総合医療センター
岐阜県立多治見病院
羽島市民病院
国保関ケ原病院
美濃市立美濃病院
多治見市民病院
土岐市立総合病院
下呂市立金山病院
高山赤十字病院
岐阜県厚生農協連 西美濃厚生病院
岐阜県厚生農協連 揖斐厚生病院
岐阜県厚生農協連 中濃厚生病院
J A 岐阜厚生連 東濃厚生病院
岐阜社会保険病院
公立学校共済組合 東海中央病院
みどり病院
海津市医師会病院
岐阜大学医学部附属病院
岐阜県立下呂温泉病院
(医社) 誠広会 平野総合病院
松波総合病院
国保坂下病院
岐阜赤十字病院
医療法人社団友愛会岩砂病院第1
河村病院
医療法人白水会白川病院
岐阜県厚生連久美愛病院

22. 静岡県

国立病院機構静岡医療センター
独立行政法人国立病院機構天竜病院
静岡県立総合病院
静岡市立静岡病院
富士市立中央病院
富士宮市立病院
静岡市立清水病院
共立蒲原総合病院
藤枝市立総合病院
榛原総合病院
掛川市立総合病院
磐田市立総合病院
袋井市立袋井市民病院
共立湖西総合病院
静岡赤十字病院
総合病院 浜松赤十字病院
静岡済生会総合病院
総合病院 静岡厚生病院
総合病院 清水厚生病院
JA 静岡厚生連 遠州病院
順天堂大学医学部附属静岡病院
聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院
聖隷三方原病院
所記念病院
国際医療福祉大学附属熱海病院
独立行政法人国立病院機構静岡富士病院
静岡県立静岡がんセンター
共立湊病院
静岡県立こども病院
浜松医科大学附属病院
独立行政法人国立病院機構静岡てんかん・神
経医療センター
浜松労災病院
芙蓉協会 聖隷沼津病院
市立御前崎総合病院

23. 愛知県

国立病院機構名古屋医療センター
国立病院機構豊橋医療センター
名古屋大学病院
名古屋通信病院
名古屋市立西部医療センター城北病院
名古屋市立大学病院
名古屋市立守山市民病院
豊橋市民病院
岡崎市民病院
一宮市立市民病院
公立陶生病院
半田市立半田病院
春日井市民病院
小牧市民病院
豊川市民病院
津島市民病院
あま市民病院
西尾市民病院
蒲郡市民病院
常滑市民病院
名古屋第一赤十字病院
名古屋第二赤十字病院
愛知県厚生連 海南病院
豊田厚生病院
愛知県厚生農協連 安城更生病院
愛知県厚生連 江南厚生病院
愛知県厚生農協連 渥美病院
社保中京病院
名鉄病院
名古屋掖済会病院
上飯田第一病院
総合大雄会病院
松陽会 松浦病院
(医療) 光生会病院
東海市民病院
三菱名古屋病院
大同病院
トヨタ記念病院
青和会 中央病院
名南病院
碧南市民病院
豊田地域医療センター
豊成会竹内医院
三好町民病院
碧友会堀尾安城病院
岡崎南病院
あいち小児保健医療総合センター
尾西記念病院
名古屋市立緑市民病院
中部労災病院
N T T 西日本東海病院
南生協病院
藤田保健衛生大学病院
藤田保健衛生大学坂文種報徳会病院
愛知医科大学病院
愛知県心身障害者コロニー中央病院
(医療) 宝美会 総合青山病院
(医療) 志聖会 犬山中央病院
愛知県厚生農協連 尾西病院
(医療) 済衆館済衆館病院
旭労災病院
医療法人財団新和会八千代病院
小嶋病院
(医療) 来光会 尾洲病院
医療法人青山病院
医療法人徳洲会名古屋徳洲会総合病院
安藤病院
知多市民病院

24. 三重県

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院
国立病院機構三重中央医療センター
三重県立総合医療センター
三重大学医学部附属病院

三重県立志摩病院
市立四日市病院
市立伊勢総合病院
伊賀市立上野総合市民病院
尾鷲総合病院
紀南病院
山田赤十字病院
四日市社会保険病院
山本総合病院
岡波総合病院
三重県厚生連 鈴鹿中央総合病院
菰野厚生病院
名張市立病院
済生会明和病院
国立病院機構三重病院
津生協病院
医療法人ヨナハクリニック
鈴鹿回生病院

25. 滋賀県

大津市民病院 小児循環器科
近江八幡市立総合医療センター
彦根市立病院
市立長浜病院
長浜市立湖北病院
公立高島総合病院
長浜赤十字病院
済生会滋賀県病院
社会保険滋賀病院
(財)豊郷病院
東近江市立能登川病院
大津赤十字志賀病院
重症心身障害児施設びわこ学園医療福祉センター野洲
滋賀医科大学病院
滋賀県立小児保健医療センター
野洲病院
独立行政法人国立病院機構紫香楽病院
友仁山崎病院

26. 京都府

市立福知山市民病院
独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター
京都大学医学部附属病院
京都市立病院
公立南丹病院
京都第二赤十字病院
京都第一赤十字病院
済生会 京都府病院
社会保険京都病院
舞鶴共済病院
総合病院 日本パプテスト病院
(社)愛生会 山科病院
堀川病院
総合病院 京都市南病院
(社福)宇治病院
白鳥産婦人科
綾部市立病院
府立舞鶴子ども療育センター
京丹後市立久美浜病院
石鎚会田辺中央病院
足立病院
亀岡市立病院
独立行政法人国立病院機構宇多野病院
京都通信病院
宇治武田病院
京都社会事業財団 京都桂病院
美杉会男山病院
公立山城病院
(社福)聖ヨゼフ会聖ヨゼフ整肢園
(医療)医仁会 武田総合病院
宇治徳洲会病院
(医療)啓信会 京都市きづ川病院
(医療)医誠会 京都ルネス病院
金井病院

社団法人京都保健会京都民医連中央病院
洛和会 音羽病院
京都市桃陽病院
医療法人和松会六地藏総合病院
京都府立医科大学小児疾患研究施設内科部門

27. 大阪府

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター
大阪大学医学部附属病院
大阪市立北市民病院
大阪府立十三市民病院
大阪府立大学病院
市立豊中病院
市立吹田市民病院
市立枚方市民病院
東大阪市立総合病院
八尾市立病院
泉大津市立病院
市立岸和田市民病院
市立貝塚病院
市立泉佐野病院
大阪赤十字病院
済生会 中津病院
大阪府済生会 泉尾病院
済生会野江病院
大阪府済生会 吹田病院
大阪府済生会 茨木病院
大阪厚生年金病院
大阪船員保険病院
東豊中渡辺病院
松下記念病院
住友病院
大阪掖済会病院
日本生命済生会付属日生病院
大阪府警察協会大阪警察病院
石井記念愛染園 愛染橋病院
(財)西淀病院
浅香山病院
(医療)きっこう会総合病院多根病院
彰療会 大正病院
同仁会 耳原総合病院
宝生会 PL病院
生長会 府中病院
関西医科大学香里病院
関西電力病院
淀川キリスト教病院
大阪府済生会千里病院
真美会 中野こども病院
寺西報恩会 長吉総合病院
聖和病院
医誠会摂津医誠会病院
医療法人枚岡病院
若弘会若草第一病院
錦秀会阪和住吉総合病院
大阪市立総合医療センター小児救急科
三友会久松病院
四天王寺福祉事業団四天王寺和らぎ苑
医療法人新明会神原病院
関西医科大学附属枚方病院
市立柏原病院
協和会 総合加納病院
仙養会 北摂総合病院
近畿大学医学部堺病院
国立循環器病研究センター
大阪北通信病院
和泉市立病院
高槻赤十字病院
星ヶ丘厚生年金病院
愛仁会 千船病院
清恵会病院
岸和田徳洲会病院
愛仁会 高槻病院
近畿大学医学部附属病院
富田林病院

信愛会 交野病院
大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター
医誠会 城東中央病院
大道会 森之宮病院
箕面市立病院
信愛会 新生病院
祐生会 みどりヶ丘病院
協仁会 小松病院
生協こども診療所
徳洲会 八尾徳洲会総合病院
阪南市立病院
同友会 共和病院
愛賛会浜田病院
生長会 ベルランド総合病院
うえだ下田部病院
大植会葛城病院

28. 兵庫県

明石医療センター
神戸大学病院
関西労災病院
兵庫県立淡路病院
兵庫県立西宮病院
神戸市立医療センター中央市民病院
明石市立市民病院
公立豊岡病院
西宮市立中央病院
加古川市民病院
市立川西病院
市立伊丹病院
公立八鹿病院
公立御津病院
市立小野市民病院
赤穂市民病院
市立西脇病院
市立芦屋病院
三田市民病院
姫路赤十字病院
済生会 兵庫県病院
社保神戸中央病院
公学共済 近畿中央病院
甲南病院
総合病院 昭和病院
(医療)明和病院
石川島播磨重工業健保組合播磨病院
六甲アイランド病院
西神戸医療センター
適寿リハビリテーション病院
樹徳会上ヶ原病院
兵庫医科大学ささやま医療センター
協和会協和マリナホスピタル
高砂西部病院
神戸市立医療センター西市民病院
公立香住総合病院
神戸赤十字病院
砂子療育園
西宮回生病院
自衛隊 阪神病院
兵庫県立こども病院
兵庫医科大学病院
神戸博愛病院
(医療)尚和会 宝塚第一病院
総合病院 姫路聖マリア病院
尼崎医療生協病院
(医療)協和会協立病院
(医療晋真会)ベリタス病院
(医療)誠仁会 大久保病院
神鋼加古川病院
独立行政法人国立病院機構兵庫青野原病院
公立神崎総合病院
兵庫県立柏原病院
東神戸病院
独立行政法人国立病院機構神戸医療センター
神戸朝日病院
神戸徳洲会病院

神戸アドベンチスト病院
真星病院
医療法人 パルモア病院
汐咲会 井野病院
医療法人伯鳳会 赤穂中央病院

29. 奈良県

市立奈良病院
奈良県立医科大学病院
吉野町国保吉野病院
町立大淀病院
済生会 奈良病院
奈良社会保険病院
天理よろづ相談所病院
土庫病院
奈良県総合リハビリテーションセンター
国保中央病院
天理市立病院
奈良県立奈良病院
奈良県立五條病院
奈良県立三室病院
済生会 中和病院
済生会御所病院
清心会 桜井病院
友絃会病院

30. 和歌山県

和歌山県立医科大学病院
海南市民病院
公立那賀病院
橋本市民病院
有田市立病院
国保日高総合病院
社会保険紀南病院
新宮市立医療センター
日本赤十字社和歌山医療センター
富田会富田病院
労働福祉事業団 和歌山労災病院
和歌山生協病院

31. 鳥取県

独立行政法人国立病院機構米子医療センター
鳥取大学病院
鳥取県立中央病院
国保智頭病院
鳥取県済生会 境港総合病院
博愛病院
鳥取生協病院
南部町国民健康保険西伯病院
県立総合療育センター
独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

32. 島根県

大田市立病院
独立行政法人国立病院機構浜田医療センター
島根県立中央病院
松江市立病院
出雲市立総合医療センター
町立奥出雲病院
公立雲南総合病院
隠岐広域連立隠岐病院
松江赤十字病院
済生会 江津総合病院
津和野共存病院
東部島根心身障害医療福祉センター
安来市立病院
島根大学医学部附属病院
独立行政法人国立病院機構松江医療センター
松江記念病院

33. 岡山県

総合病院 岡山市立市民病院
倉敷市立児島市民病院
市立井原市民病院
総合病院 岡山赤十字病院

川崎医学振興財団川崎病院
(財)倉敷中央病院
津山中央病院
(医)水代会 水島中央病院
新見中央病院
総合病院 落合病院
総合病院 岡山協立病院
総合病院 水島協同病院
ペリネイト母と子の病院
国保町立成羽病院
医療法人三水会 田尻病院
総合病院玉野市立玉野市民病院
川崎医科大学病院
独立行政法人国立病院機構南岡山医療センター
(財)仁厚医学研究所 児島中央病院
倉敷成人病センター
倉敷リバーサイド病院
和香会 倉敷廣済病院
笠岡中央病院
笠岡第一病院
岡山労災病院
倉敷北病院
長島病院

34. 広島県

呉医療センター
独立行政法人国立病院機構福山医療センター
独立行政法人国立病院機構東広島医療センター
広島大学病院
広島鉄道病院
広島通信病院
県立広島病院
県立安芸津病院
広島市立広島市民病院
市立三次中央病院
広島赤十字・原爆病院
総合病院 三原赤十字病院
総合病院 庄原赤十字病院
広島厚生連農協 尾道総合病院
厚生連 広島総合病院
広島県厚生農協連 府中総合病院
広島記念病院
中国電力株式会社 中電病院
マツダ株式会社 マツダ病院
福島生協病院
千代田中央病院
府中市立府中北市民病院
広島市医師会運営安芸市民病院
里仁会白龍湖病院
医療法人社団沼南会 沼隈病院
独立行政法人国立病院機構広島西医療センター
日本鋼管福山病院
広島市立舟入病院
福山市市民病院
広島医療生協広島共立病院
広島市立安佐市民病院
中国労災病院
県立障害者リハビリテーションセンター医療センター
神原病院
みのり会 北川病院
公立みつぎ総合病院
あかね会 土谷総合病院
正岡病院
うすい会 高陽ニュータウン病院
里仁会 興生総合病院

35. 山口県

国立病院機構関門医療センター
山口大学病院
山口県立総合医療センター
下関市立中央病院
総合病院 光市立病院
美祢市立美東病院
総合病院 山口赤十字病院

済生会 下関総合病院
周東総合病院
小郡第一総合病院
長門総合病院
社保徳山中央病院
地域医療支援病院オープンシステム徳山医師会病院
神徳会 三田尻病院
山口労災病院
鼓ヶ浦こども医療福祉センター
美祢市立病院
周南記念病院
至誠会梅田病院
山口県済生会下関市立豊浦病院
元洋会 森山病院
済生会 山口総合病院
光市立大和総合病院
宇部協立病院

36. 徳島県

徳島大学病院
徳島県立中央病院
徳島市民病院
町立半田病院
徳島赤十字病院
阿南共栄病院
厚生連 麻植協同病院
健保鳴門病院
徳島健生病院
独立行政法人国立病院機構東徳島病院
修誠会 吉野川病院
(医療) 原田病院
田葺病院

37. 香川県

さぬき市民病院
土庄中央病院
三豊総合病院
高松赤十字病院
屋島総合病院
滝宮総合病院
社保栗林病院
麻田総合病院
内海病院
高松市民病院
独立行政法人国立病院機構香川小児病院
香川県済生会病院
香川県立白鳥病院
坂出聖マルチン病院
香川大学医学部附属病院
香川町国民健康保険香川診療所
高松平和病院
大樹会総合病院 回生病院
香川井下病院

38. 愛媛県

独立行政法人国立病院機構愛媛病院
愛媛県立中央病院
愛媛県立今治病院
市立八幡浜総合病院
市立宇和島病院
宇和島市立吉田病院
宇和島市立津島病院
西条中央病院
住友別子病院
公立学校共済組合四国中央病院
愛媛労災病院
伊予病院
(財法) 積善会附属十全総合病院
更生会 村上記念病院
西条市立周桑病院
済生会今治病院
美賀賀病院

39. 高知県

国立病院機構高知病院
高知医療センター
土佐市立土佐市民病院
高知赤十字病院
聖真会 渭南病院
公世会野市中央病院
幡多けんみん病院
(医療) 仁生会 三愛病院
高知大学医学部附属病院
高知県立安芸病院

40. 福岡県

独立行政法人国立病院機構小倉医療センター
独立行政法人国立病院機構福岡病院
独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター
久留米大学医療センター
九州大学病院
北九州市立門司病院
北九州市立医療センター
産業医大若松病院
北九州市立八幡病院
大牟田市立総合病院
筑後市立病院
公立八女総合病院
福岡赤十字病院
嘉麻赤十字病院
福岡県済生会八幡病院
福岡県済生会 福岡総合病院
九州厚生年金病院
浜の町病院
公立学校共済 九州中央病院
福岡記念病院
久留米大学病院
飯塚病院
宗像医師会病院
宗像水光会総合病院
姫野病院
飯塚市立病院
九州労災病院
国立病院九州がんセンター
自衛隊 福岡病院
鞍手町立病院
聖ヨゼフ園
慈恵曾根病院
正信会 水戸病院
ゆうかり医療療育センター
町立芦屋中央病院
産業医科大学病院
福岡大学病院
北九州総合病院
北九州市立総合療育センター
福岡市立こども病院・感染症センター感染症科
米の山病院
徳洲会 福岡徳洲会病院
太刀洗病院
高邦会 高木病院
健和会 大手町病院
牧山中央病院
川崎町立病院
朝倉医師会病院
西野病院
牟田病院
水巻共立病院
健和会京町病院
福岡県立粕屋新光園
福岡大学筑紫病院
相生会 宮田病院
社会保険田川病院

41. 佐賀県

独立行政法人国立病院機構佐賀病院
独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター
唐津赤十字病院
佐賀社会保険病院

佐賀整肢学園こども発達医療センター
古賀小児科内科病院
医療法人社団 敬愛会 佐賀記念病院
独立行政法人国立病院機構東佐賀病院
佐賀大学病院
静便堂 白石共立病院
順天堂病院
至慈会 高島病院

42. 長崎県

国立病院長崎医療センター
長崎大学病院
長崎市立市民病院
佐世保市立総合病院
五島中央病院
杵岐公立病院
健保諫早総合病院
佐世保共済病院
長崎記念病院
(医療) 白十字会佐世保中央病院
県立こども医療福祉センター
国保平戸市民病院
医療法人医理会 柿添病院
独立行政法人国立病院機構長崎病院
長崎県立島原病院
長崎県済生会病院
日浦病院
諫早療育センター
平成会 女の都病院

43. 熊本県

独立行政法人国立病院機構熊本医療センター
独立行政法人国立病院機構熊本再春荘病院
熊本大学医学部附属病院
熊本市市民病院
和水町立病院
荒尾市民病院
阿蘇中央病院
小国公立病院
球磨郡公立多良木病院
上天草総合病院
熊本赤十字病院
熊本中央病院
球磨病院
愛育会 福田病院
くわみず病院
熊本循環器科病院
聖和会有明成仁病院
黎明会宇賀岳病院
牛深市民病院
坂本病院
芦北学園発達医療センター
熊本地域医療センター
公立玉名中央病院
坂梨会 阿蘇温泉病院
丸田病院
熊本託麻台病院
御幸病院
菊池中央病院

44. 大分県

別府医療センター
独立行政法人国立病院機構西別府病院
中津市立中津市民病院
杵築市立山香病院
津久見市医師会立津久見中央病院
大分こども病院
大分県済生会日田病院
別府発達医療センター
大分市医師会立アルメイダ病院
大分大学医学部附属病院
大分健生病院
健保南海病院
医療法人財団天心堂へつぎ病院
大分岡病院

竹田医師会病院

45. 宮崎県

県立宮崎病院
県立延岡病院
県立日南病院
小林市立病院
高千穂町国保病院
育生会井上病院
県立こども療育センター
宮崎生協病院
宮崎市小児診療所
独立行政法人国立病院機構宮崎病院
独立行政法人国立病院機構宮崎東病院
宮崎大学附属病院
宮崎県済生会日向病院

46. 鹿児島県

国立病院鹿児島医療センター
独立行政法人国立病院機構指宿病院
鹿児島大学病院
県民健康プラザ鹿児島医療センター
鹿児島市立病院
出水総合医療センター
オレンジ学園
鹿児島こども病院
国分生協病院
沖永良部徳州会病院
霧島市立医師会医療センター
今村病院
独立行政法人国立病院機構南九州病院
総合病院鹿児島生協病院
やまびこ医療福祉センター
済生会 川内病院
鹿児島市医師会病院
徳洲会 鹿児島徳洲会病院
薩摩郡医師会病院
医療法人徳洲会徳之島徳洲会病院

47. 沖縄県

北部病院
医療法人球陽会海邦病院
糸数病院
上村病院
県立北部病院
沖縄県立中部病院
総合病院沖縄赤十字病院
琉球大学病院
沖縄県立宮古病院
県立八重山病院
敬愛会 中頭病院
那覇市立病院
(医療) おもと会 大浜第1病院
沖縄整肢療護園
友愛会 豊見城中央病院
もとぶ野毛病院
中部徳洲会病院
かりゆし会ハートライフ病院
潮平病院
沖縄療育園
医療法人信和会沖縄第一病院

川崎病調査票(第21回全国調査)

お願い

- 平成21年1月1日～平成22年12月31日の2年間に発症し貴施設を受診した患者全員について記入して下さい。
- 症例がない場合も本調査票のQ1.「施設に関する質問」をご記入の上、ご返送下さい。
- 他施設より紹介された患者、他施設へ紹介した患者も含めます。

平成22年12月

川崎病全国疫学調査事務局作成

主治医(代表者)ご芳名

メールアドレス

診断の確実度の定義

- 確実A: 6つの主要症状のうち5つ以上の症状あり
- 確実B: 4つの症状しかないが冠動脈瘤(拡大を伴う)
- 不全型: 下記1)参照

記入しない	患者氏名 イニシャル 姓・名の順 に記入する	発病時患者住所 番地は省略する	性	出生年月日	出生時の状況	初診年月日	初診時 病日 今回の川崎病 の症状が最初に 出た日を第 1病日とする	診断の 確実度	治療(前医での投与分についても含む)			今回の 発症	同胞例	両親の 川崎病 既往歴	心臓病		その他の 合併症
									初回(IG) 投与方法 IG投与なしの場合は 記入不要	初回(IG) 投与後の 追加治療法 あてはまるものを すべてに○をつける	後遺症 (1か月以降)				該当するものをすべてに○をつける 巨大瘤は直径8mm以上の冠動脈瘤をいう	急性期 (1か月以内)	
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 年 月 日	在胎週数 週 日 出生時体重 g	1 平成21年 月 日 2 平成22年 月 日	初診時 病日	1 確実A 2 確実B 3 不全型 ¹⁾ 主要症状の数 (/6)	初回(IG) 投与方法 1 初回IG投与 2 前医 開始 日 1日 x 日	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infiximab	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 脳炎・脳症 2 重症心筋炎(*) 3 頻脈性不整脈 4 嘔吐・下痢 5 気管支炎・肺炎 6 肉眼的血尿		
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 年 月 日	在胎週数 週 日 出生時体重 g	1 平成21年 月 日 2 平成22年 月 日	初診時 病日	1 確実A 2 確実B 3 不全型 ¹⁾ 主要症状の数 (/6)	初回(IG) 投与方法 1 初回IG投与 2 前医 開始 日 1日 x 日	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infiximab	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 脳炎・脳症 2 重症心筋炎(*) 3 頻脈性不整脈 4 嘔吐・下痢 5 気管支炎・肺炎 6 肉眼的血尿		
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 年 月 日	在胎週数 週 日 出生時体重 g	1 平成21年 月 日 2 平成22年 月 日	初診時 病日	1 確実A 2 確実B 3 不全型 ¹⁾ 主要症状の数 (/6)	初回(IG) 投与方法 1 初回IG投与 2 前医 開始 日 1日 x 日	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infiximab	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 脳炎・脳症 2 重症心筋炎(*) 3 頻脈性不整脈 4 嘔吐・下痢 5 気管支炎・肺炎 6 肉眼的血尿		
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 年 月 日	在胎週数 週 日 出生時体重 g	1 平成21年 月 日 2 平成22年 月 日	初診時 病日	1 確実A 2 確実B 3 不全型 ¹⁾ 主要症状の数 (/6)	初回(IG) 投与方法 1 初回IG投与 2 前医 開始 日 1日 x 日	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infiximab	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 脳炎・脳症 2 重症心筋炎(*) 3 頻脈性不整脈 4 嘔吐・下痢 5 気管支炎・肺炎 6 肉眼的血尿		
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 年 月 日	在胎週数 週 日 出生時体重 g	1 平成21年 月 日 2 平成22年 月 日	初診時 病日	1 確実A 2 確実B 3 不全型 ¹⁾ 主要症状の数 (/6)	初回(IG) 投与方法 1 初回IG投与 2 前医 開始 日 1日 x 日	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infiximab	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 脳炎・脳症 2 重症心筋炎(*) 3 頻脈性不整脈 4 嘔吐・下痢 5 気管支炎・肺炎 6 肉眼的血尿		
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 年 月 日	在胎週数 週 日 出生時体重 g	1 平成21年 月 日 2 平成22年 月 日	初診時 病日	1 確実A 2 確実B 3 不全型 ¹⁾ 主要症状の数 (/6)	初回(IG) 投与方法 1 初回IG投与 2 前医 開始 日 1日 x 日	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infiximab	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 脳炎・脳症 2 重症心筋炎(*) 3 頻脈性不整脈 4 嘔吐・下痢 5 気管支炎・肺炎 6 肉眼的血尿		
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 年 月 日	在胎週数 週 日 出生時体重 g	1 平成21年 月 日 2 平成22年 月 日	初診時 病日	1 確実A 2 確実B 3 不全型 ¹⁾ 主要症状の数 (/6)	初回(IG) 投与方法 1 初回IG投与 2 前医 開始 日 1日 x 日	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infiximab	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 脳炎・脳症 2 重症心筋炎(*) 3 頻脈性不整脈 4 嘔吐・下痢 5 気管支炎・肺炎 6 肉眼的血尿		

Q1.「施設に関する質問」(本調査票を2枚以上使用の場合は1枚目にご記入下さい)

- 貴院のベッド数はいくつですか。 病院全体 小児科 一般病床 床 人
- 貴院の小児科医は何人ですか。 常勤小児科医 人 非常勤小児科医 人
そのうち循環器を専門とする小児科医 人 非常勤小児科医 人
- 貴院では「川崎病急性期カード」³⁾を渡していますか。 3. 使用していない
1. 全例に渡している 2. 一部の患者(家族)に渡している
- 川崎病診療費の支払い方法はどちらですか。
1. 出来高払い(全医療行為について) 2. 定額払いの導入(DPC適用)
→(2のみ)免疫グロブリン投与などの制限を受けたことがありますか。 1. はい 2. いいえ

Q2.「死亡例に関する質問」(今回の報告のみでなく、前回までの調査で生存として報告され、その後死亡した例も含めてご記入下さい)

患者氏名(イニシャル)	性	出生年月日	川崎病初診年月日	死亡年月日	剖検	死亡原因	剖検の施設名など
姓 名	1. 男 2. 女	昭・平 年 月 日	昭・平 年 月 日	平成 年 月 日	1. なし 2. あり		
姓 名	1. 男 2. 女	昭・平 年 月 日	昭・平 年 月 日	平成 年 月 日	1. なし 2. あり		

1)「川崎病不全型」診断の引きの基準は満たさないが、他の疾患が認められ川崎病と考えられるもの。

2)「免疫グロブリン不応例」通常総量2g/kgのIVIg投与終了後24時間以上持続する発熱、または24時間以内に再発熱が認められた場合とする。判定には発熱以外の急性期症状や検査結果の改善度も判断する。

3)「川崎病急性期カード」については次のサイトをご参照ください。http://www.kawasaki-disease.org/tebiki/index.html

一住所、電話番号の誤りは朱書にてご訂正下さい。
〒329-0498 返送先
栃木県下野市葉師寺3311-1
自治医科大学公衆衛生学教室気付
川崎病全国疫学調査事務局 宛
電話：0285-44-6192, 0285-58-7338
77かかり：0285-44-7217
e-mail: ep.ikd@jichi.ac.jp

★死亡例はQ2にご記入ください